

# 平成30年度 行政評価結果

平成30年8月  
海老名市

(外部評価委員会・行財政改革推進委員会)

# <目 次>

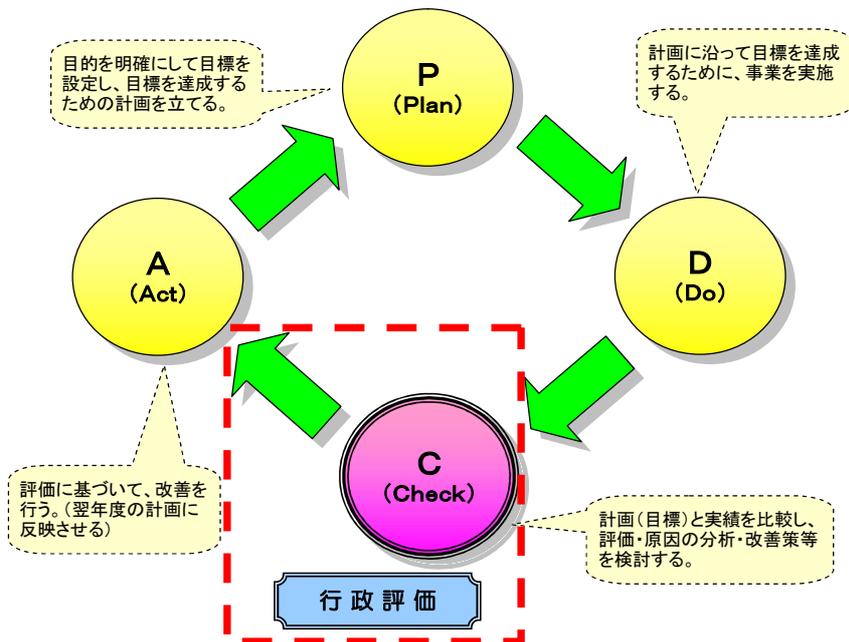
I	行政評価の概要	
1	行政評価とは	1
2	第四次総合計画に基づく行政活動の体系と 海老名市かがやき持続総合戦略	1
3	取組の経緯	2
4	行政評価の体制	4
5	評価結果の活用	7
6	次年度計画等への反映	7
7	評価結果の公表	7
II	内部評価の結果	
	内部評価の実施概要	8
III	外部評価の結果	
1	外部評価を終えた外部評価委員会からのあいさつ	10
2	外部評価の実施概要	11
3	事業別・施策別外部評価結果	16
4	平成30年度外部評価を通じたの総括意見	17
	(行政評価結果)	
	海老名市かがやき持続総合戦略事業評価	19

# I 行政評価の概要

## 1 行政評価とは

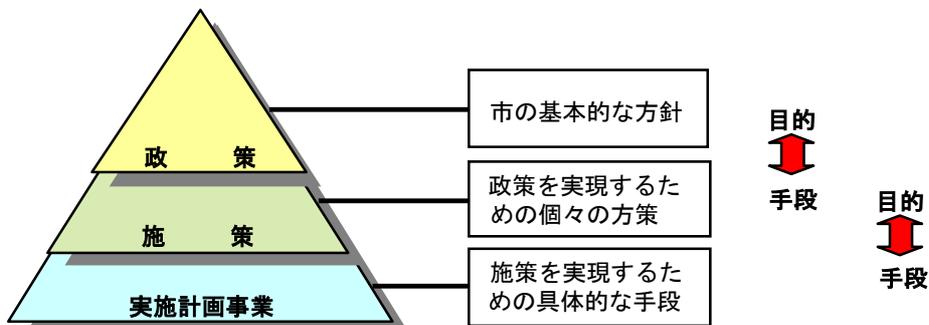
行政評価とは、行政活動の目的を明確化して、活動の結果や成果について一定の基準・視点に沿って評価し、行政運営の改善につなげることを目的とした行政改革の取組みです。

具体的には、下図に示したPDCAサイクルのC h e c k（チェック）の段階にあたる作業です。



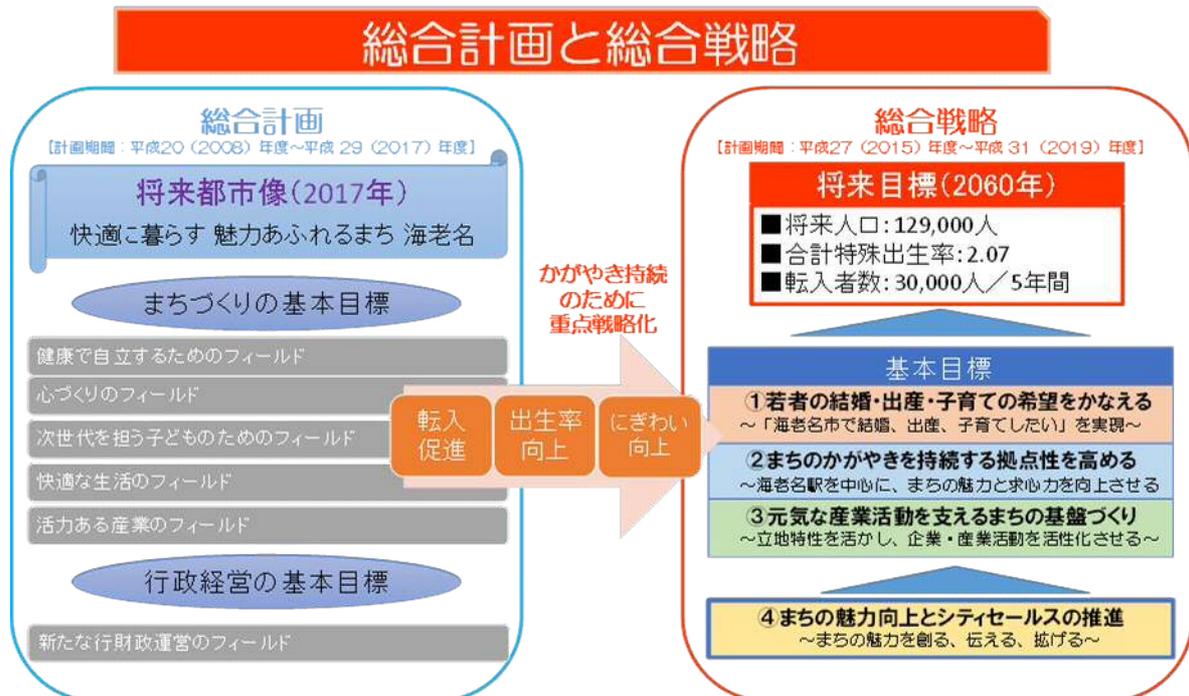
## 2 第四次総合計画に基づく行政活動体系と海老名市かがやき持続総合戦略

海老名市第四次総合計画に基づく行政活動は、下図に示すように、「政策」→「施策」→「実施計画事業」という三層の構造の下に行われており、この三層の構造が相互に「目的・手段」の関係を持ちながら一つの体系を形成しています。



第四次総合計画に基づく行政活動の体系図

さらに、第四次総合計画では「快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名」を将来像として掲げて施策を展開しており、これらとの整合性を図りながら、人口減少対策に焦点化し、平成 28 年 2 月に『海老名市かがやき持続総合戦略』を策定しました。



### 3 取組の経緯

#### (1) 事業評価について

本市における行政評価制度は、平成 12 年度に行政評価システムの導入の検討を開始し、職員に対する行政評価研修を行い、平成 14 年度からは一部の事業において、事務事業評価を実施するところから始まりました。

その後、平成 17 年度からは I T（情報技術）を活用した行政評価システムを新たに導入し、平成 18 年度からこの行政評価システムを活用した事務事業評価を実施してきました。

平成 20 年度からは、行政評価と実施計画の進行管理及び予算編成との連携を強化し、P D C A サイクルによる事務執行の明確化を進めるため、5 ページの図のとおり、新たな行財政マネジメントサイクルを確立しました。

また、外部評価については、行政評価の客観性向上や行政評価全体の充実を図ることを主な目的として、平成 17 年度に「海老名市外部評価委員会」を設置し、平成 18 年度からは実施計画事業を対象とする事務事業評価を実施してきています。

そして、平成 21 年度は、実施計画事業がさらに効果的・効率的に機能するように、第四次総合計画の初年度である平成 20 年度の実施計画事業を束ねる全施策を対象として、新たに施策評価を実施しました。

しかし、施策評価の結果は、施策間のレベルや連携強化に向けての整理、施策内における実施計画事業の組み替えといった総合計画そのものの体系的改善に反映していくものであることから、後期基本計画（25 年度～29 年度）に係る今後の策定状況等を勘案して、適宜実施していくのが効率的・効果的であると考えました。

そこで、平成 22 年度以降は、行政評価の取組において、実施計画の進捗管理に係る基盤的な役割を担うという観点に立ち、個々の実施計画事業の必要性・有効性・効率性などを検証するために事務事業評価を実施することとし、平成 23 年度からは、外部評価委員会より事業内容等に対して指摘のあった事業については、外部評価委員会に対してフィードバックをするために、担当部課による次年度の方向性や考え方について直接説明を行っています。

平成 25 年度以降は、“担当部課評価－内部評価－外部評価”と 3 段階での評価が行えるよう、内部評価と外部評価の対象事業を同一とし、さらに、対象事業の選定を第四次総合計画後期基本計画で体系化されている“政策”を選定し、選定した政策に位置付けられている全実施計画事業を評価対象とすることで、“政策”“施策”にも視点を置きながら、各事業の評価を行いました。

なお、平成 20 年度から 29 年度までの 10 年間を計画期間とする第四次総合計画の総括を行う意味からも、平成 26 年度から 28 年度の 3 年間で全 66 施策及び全実施計画事業を評価することとしており、この 3 年間の最終年度にあたる平成 28 年度をもって全施策及び全実施計画事業の評価を完了しました。

平成 29 年度からは、本市の長期的な課題である人口減少、少子高齢化の課題を解決し、今のかがやきを持続させることを目的として平成 28 年 2 月に策定した『海老名市かがやき持続総合戦略』に位置付けられている事業の評価することとし、平成 30 年度は全 107 事業のうち 70 事業を評価対象としました。そして、外部評価委員会による施策評価を実施するにあたっては平成 28 年度に引き続き、内部評価を実施した各部等の次長に対し、外部評価委員会としてヒアリングを実施しました。

なお、平成 30 年度の評価対象事業の一覧は、20～22 ページに掲載しています。

## 4 行政評価の体制

### (1) 担当部課評価

事業を所管する各課等が行う評価です。

### (2) 内部評価

行政評価を統括している財務部の長及び各部等の次長で組織される行財政改革推進委員会が行う評価です。

### (3) 外部評価

海老名市外部評価委員会条例により設置された学識経験者及び公募市民の12名で組織される海老名市外部評価委員会が行う評価です。

#### 【海老名市かがやき持続総合戦略事業】

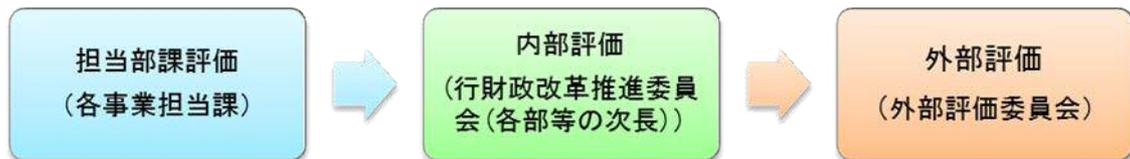
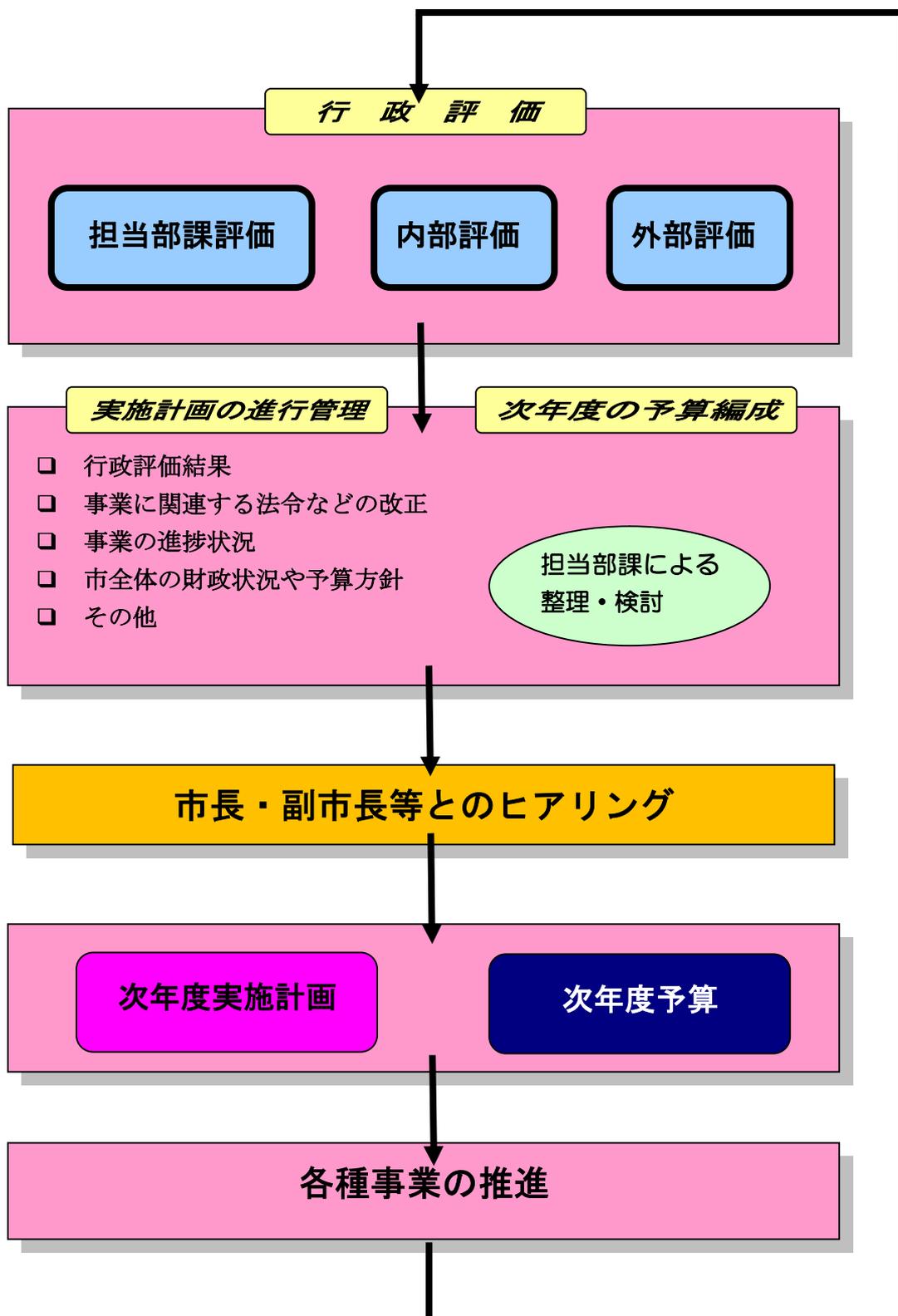


図 海老名市行財政マネジメントサイクル



なお、年度別の行政評価の取組み経緯は、下表のとおりです。

年 度	取組み内容
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行政評価システム導入の検討開始</li> <li>○ 「施策・事務事業評価構築チーム」設置</li> </ul>
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「行政評価システム導入報告書」作成</li> <li>○ 行政評価の職員研修実施</li> </ul>
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務事業評価の一部事業の抽出</li> <li>○ 行政評価の職員研修実施</li> </ul>
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務事業評価の一部実施（52事業）</li> <li>○ 事務事業評価結果のホームページによる公開</li> </ul>
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務事業評価の一部実施（82事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施</li> </ul>
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事務事業評価の実施（419事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施</li> <li>○ 外部評価の実施（48事業）</li> <li>○ IT（パッケージソフト）を活用した行政評価システムの導入</li> </ul>
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第三次総合計画実施計画（平成17～19年度）掲載の平成17年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（492事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課・内部評価を経た117事業）</li> </ul>
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第三次総合計画実施計画（平成17～19年度）掲載の平成18年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（445事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課・内部評価を経た102事業）</li> </ul>
平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第三次総合計画実施計画（平成17～19年度）掲載の平成19年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（430事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た283事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課を経た94事業）</li> <li>※ 内部評価並びに外部評価は同時並行で実施</li> </ul>
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成20～24年度）掲載の平成20年度実施計画事業及び施策を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（435事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た435事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（79施策）・・・施策評価の実施</li> <li>※ 内部評価並びに外部評価は同時並行で実施</li> </ul>
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成20～24年度）掲載の平成21年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（450事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た101事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課・内部評価を経た53事業）</li> <li>○ 評価用ITシステムに係る現行パッケージソフトから自己方式への切替え</li> </ul>
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成20～24年度）掲載の平成22年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（438事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た30事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価を経た33事業）</li> <li>※ 内部評価並びに外部評価は同時並行で実施</li> <li>○ 評価結果を踏まえた担当部課による進捗評価を9月末時点で実施予定（438事業）</li> </ul>
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成20～24年度）掲載の平成23年度実施計画事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（353事業）※各事業の統合や実施計画対象事業の見直しにより85事業減少</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た47事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価を経た27事業）</li> <li>※ 内部評価並びに外部評価は同時並行で実施</li> </ul>
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成20～24年度）掲載の平成24年度実施計画事業及び第四次総合計画実施計画（平成25年度）掲載の平成24年度実施事業を対象</li> <li>○ 担当部課評価の実施（268事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た74事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価、内部評価を経た74事業）</li> </ul>

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成25年度）事業及び実施計画（平成26年度）掲載の平成25年度実施事業を対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（230事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た93事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価、内部評価を経た93事業）</li> </ul> </li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成26年度）事業及び実施計画（平成27年度）掲載の平成26年度実施事業を対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（225事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た84事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価、内部評価を経た84事業）</li> </ul> </li> </ul>
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第四次総合計画実施計画（平成27年度）事業及び実施計画（平成28年度）掲載の平成27年度実施事業を対象</li> <li>◆ 平成28年2月に策定された「海老名市かがやき持続総合戦略」に位置付けられる事業（かがやき持続総合戦略事業）のうち、国からの交付金（地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金）事業として平成27年度に実施した5事業についても対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（実施計画掲載の有無を問わず全事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経た56事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価、内部評価を経た56事業）</li> </ul> </li> </ul>
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 海老名市かがやき持続総合戦略事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（市で行っている全事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経たもののうち35事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（内部評価を経た35事業）</li> </ul> </li> <li>◆ 補助金の見直し（平成27年度以降に初めて支出をした補助を除く） <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（105事業）</li> <li>○ 企画財政課評価の実施（担当部課評価を経た105事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価、企画財政課評価を経た105事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（担当部課評価、企画財政課評価、内部評価を経た105事業）</li> </ul> </li> </ul>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 海老名市かがやき持続総合戦略事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当部課評価の実施（市で行っている全事業）</li> <li>○ 行財政改革推進委員会による内部評価の実施（担当部課評価を経たもののうち70事業）</li> <li>○ 外部評価の実施（内部評価を経た70事業）</li> </ul> </li> </ul>

## 5 評価結果の活用

評価結果は、市職員が市政運営の現状に対し、全庁的な共通認識を形成するためのツールとして活用していきます。

また、有効なマネジメントツールとして、進捗評価、実施計画事業の次年度に向けた見直し・改善、予算編成及び各部局等の事業展開などに、評価の結果を広く活用していきます。

## 6 次年度計画等への反映

評価結果をもとに、新たな状況変化等も踏まえて、取組の内容・実施方法等について必要な修正を行うとともに、次年度以降の実施計画や予算に反映していきます。

## 7 評価結果の公表

行政活動の透明性を向上させるとともに、市民の行政への理解や参画意識を促進させるには、評価の内容や結果等がしっかり理解されるような情報を市民に提供することが重要であり、市民への説明責任を遂行する意味でも、行政評価の公表の仕方を工夫する必要があります。

そこで、公表にあたっては、行政評価の結果を市ホームページに掲載していくことに加えて、市内図書館での閲覧も可能にするなど、市民にとって少しでもわかりやすい公表となるよう努めていきます。

## Ⅱ 内部評価の結果

### 1 内部評価の実施概要

#### (1) 内部評価グループ体制

今年度の内部評価について、下表に示すとおり行財政改革推進委員会の委員長を除いた12名の各委員を3つのグループに分けて、内部評価の作業を行いました。

※施策評価及び事業評価を実施

グループ	所属	氏名	内部評価対象事業数
Aグループ	市長室次長 市民協働部次長 保健福祉部次長（子育て担当） 消防次長（消防署担当）	藤川 浩幸 江成 立夫 小澤 孝夫 二見 裕司	・まちづくり部所管事業【7事業】 ・教育部所管事業【15事業】 ⇒評価事業数：22事業 評価施策数：2施策
Bグループ	財務部次長 保健福祉部次長（健康・保険担当） 保健福祉部次長（福祉担当） 消防次長（消防本部担当） 議会事務局次長	伊藤 修 木村 洋 萩原 明美 青木 利行 安齊 准子	・市長室所管事業【6事業】 ・市民協働部所管事業【4事業】 ・保健福祉部所管事業【1事業】 ・経済環境部所管事業【1事業】 ・まちづくり部所管事業【8事業】 ・教育部所管事業【2事業】 ⇒評価事業数：22事業 評価施策数：2施策
Cグループ	経済環境部次長 まちづくり部次長（都市担当） まちづくり部次長（建設担当） 教育部次長（総務・社会教育担当） 教育部次長（学校教育担当）	谷澤 康德 渋谷 明美 栗山 昌仁 金指 太郎 小宮 洋子	・保健福祉部所管事業【26事業】 ⇒評価事業数：26事業 評価施策数：2施策

#### (2) 内部評価対象施策・事業

今年度における内部評価の対象事業は、昨年度同様、“担当部課評価－内部評価－外部評価”と、3段階での評価が行えるよう外部評価対象事業と同一にしました。

平成28年2月に策定した「海老名市かがやき持続総合戦略」は、掲げている4つの基本目標に位置付けられている施策毎に、施策を推進するために取り組むべき事業（海老名市かがやき持続総合戦略事業：全107事業）選定しています。平成30年度の内部評価では、そのうち70事業を評価対象としました。

### **(3) 事業別・施策別内部評価結果**

それぞれ担当部課評価、外部評価結果と合わせて、19 ページからの“行政評価結果”に記載しています。

併せて 20～22 ページの“内部評価・外部評価対象施策・事業一覧”もご参照ください。

### Ⅲ 外部評価の結果

#### 1 外部評価を終えた外部評価委員会からのあいさつ

海老名市外部評価委員会は、海老名市外部評価委員会条例（平成 17 年 10 月）の制定を受けて、平成 18 年度から本格的にスタートしました。これは市民 12 人の委員で構成される第三者委員会で、市が実施する行政評価を市民の目線で再評価することを目的としています。

本格的なスタートから 13 年目を迎えた本委員会は、平成 28 年 2 月に海老名市が策定しました「海老名市かがやき持続総合戦略」に位置付けられている施策及び事業全 107 事業のうち、70 事業を対象とし評価作業を行いました。

事業評価については、評価対象とした 70 事業の全てにつき、各委員が議論を重ねました。これら 70 事業は、海老名市かがやき持続総合戦略に定められた基本目標を達成するために、各施策の実行を支える取組として位置付けられています。今年度も、事業評価に加え施策評価を実施し、それぞれについてヒアリングを行った結果、海老名市かがやき持続総合戦略を多角的に見ることができたように思います。

外部評価委員会では、委員を 3 グループに分け、行政評価調書やヒアリングの内容等に基づいて評価作業を行い、評価結果及び評価作業における感想などを本報告書にまとめています。各外部評価委員が一般市民の代表として、自覚と責任を持って事業の理解に努め意見を出し合った結果となっていますので、外部評価委員会から出された意見を参考とし、次年度以降の取組に活かしていただくことを期待します。また、市民のための施策、市民のための事業であることを意識し、行財政改革や事業推進の効率化に努めるとともに、市民への説明責任をこれまで以上に果たされることも期待します。

最後になりましたが、今回の評価作業において、業務多忙のなか真摯に対応いただいた各部等の次長及びヒアリング対象部署の皆様をはじめ、多くの方にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

## 2 外部評価の実施概要

### (1) 外部評価委員会の審議経過

今年度の外部評価委員会は、12名の委員が3グループに分かれて実施しました。評価にあたり、各事務事業については担当課に、各施策については各部等の次長に対してヒアリングを行い、評価結果及び付帯意見を取りまとめ、外部評価委員会としての合議により報告書としてまとめました。

開催日	主な内容
平成30年2月19日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第2回外部評価委員会</li> <li>○ 平成30年度の外部評価の進め方について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価方法の検討</li> <li>・各グループの評価担当施策及び事業の決定</li> </ul> </li> </ul>
平成30年5月23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第3回外部評価委員会</li> <li>○ 今後のグループ別評価の具体的作業の確認について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングでの確認事項等について</li> <li>・質問事項及び所管課への要求資料の確認</li> </ul> </li> </ul>
平成30年5月30日(水)	◆ Bグループヒアリング前グループ作業
平成30年5月31日(木)	◆ Cグループヒアリング前グループ作業
平成30年6月18日(月)	◆ Aグループヒアリング前グループ作業
平成30年6月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Bグループ評価会議 ①</li> <li>(道路管理課、都市計画課、保育・幼稚園課、市街地整備課、就学支援課、危機管理課、市民相談課、環境課へのヒアリング)</li> </ul>
平成30年6月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Aグループ総合戦略事業評価会議 ①</li> <li>(学び支援課、教育総務課、都市計画課、市街地整備課、道路整備課へのヒアリング)</li> </ul>
平成30年6月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Aグループ評価会議 ②</li> <li>(就学支援課、教育支援課へのヒアリング、事業評価グループ作業)</li> </ul>
平成30年6月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Cグループ評価会議 ①</li> <li>(子育て相談課、国保医療課、地域包括ケア推進課へのヒアリング)</li> </ul>
平成30年6月28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Bグループ評価会議 ②</li> <li>(地域づくり課、住宅公園課、学び支援課へのヒアリング、事業評価グループ作業)</li> </ul>

開催日	主な内容
平成30年6月28日(木)	<p>◆ Cグループ評価会議 ②  (健康推進課、こども育成課、保育・幼稚園課へのヒアリング)</p>
平成30年6月29日(金)	<p>◆ Cグループ評価会議 ③  (事業評価グループ作業)</p>
平成30年7月4日(水)	<p>◆ Cグループ評価会議 ④  施策に係る内部評価担当次長へのヒアリング、施策評価のグループ内まとめ作業</p>
平成30年7月5日(木)	<p>◆ Bグループ評価会議 ③  施策に係る内部評価担当次長へのヒアリング、施策評価のグループ内まとめ作業</p>
平成30年7月6日(金)	<p>◆ Aグループ総合戦略事業評価会議 ③  施策に係る内部評価担当次長へのヒアリング、施策評価のグループ内まとめ作業</p>
平成30年7月20日(金)	<p>◆ 第4回外部評価委員会  ○ 平成30年度外部評価結果報告書(案)について①  ・報告書の構成について  ・総括意見のまとめ方について  ・その他</p>

(2) 海老名市外部評価委員会委員名簿

職	氏名	選出区分
委員長	たなか たけお 田 中 健 生	公募市民
副委員長	じょう こう ひで あき 城 向 秀 明	学識経験者
副委員長	おお しま ち か 大 島 千 佳	学識経験者
委員	しも だ さよ こ 霜 田 さよ 子	学識経験者
委員	たか はし ひろ ゆき 高 橋 裕 之	学識経験者
委員	すご う いきむ 菅 生 勇	学識経験者
委員	はせ がわ のぶ ひさ 長 谷 川 展 久	学識経験者
委員	やま だ のぶ え 山 田 信 江	学識経験者
委員	たけ い てつ や 武 井 哲 也	学識経験者
委員	すぎ やま りつ こ 杉 山 律 子	公募市民
委員	たに むら たかし 谷 村 隆	公募市民
委員	にし がい まさ よし 西 海 正 義	公募市民

### (3) 外部評価グループ体制

◎はグループリーダー

グループ	氏名	外部評価対象事業数
A グループ	◎田中 健生	<b>海老名市かがやき持続総合戦略事業評価【2施策・22事業】</b> ・基本目標1 若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てをしたい」を実現～ ・施策：教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～ ・取組の方向性：ひびきあう教育の推進【1事業】 子どもの居場所づくり【2事業】 学校施設の充実【3事業】 教育支援体制の充実【9事業】  ・基本目標2 まちのかがやきを持続する拠点性を高める ～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～ ・施策：地域公共交通網の整備 ・取組の方向性：総合交通対策の推進【2事業】 交流拠点における交通結節機能の強化【1事業】 道路整備の推進【4事業】
	長谷川 展久	
	山田 信江	
	菅生 勇	
B グループ	◎城向 秀明	<b>海老名市かがやき持続総合戦略事業評価【2施策・22事業】</b> ・基本目標1 若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てをしたい」を実現～ ・施策：居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～ ・取組の方向性：えびなっ子を守る【4事業】 交通安全の推進【1事業】 防犯対策の推進【3事業】 住宅政策の推進【1事業】 学生の定住促進【2事業】 危機管理の強化【6事業】  ・基本目標4 まちの魅力向上とシティセールスの推進 ～まちの魅力を創る、伝える、拡げる～ ・施策：まちの魅力向上 ・取組の方向性：住みたい住み続けたいまちづくりの推進 【5事業】
	高橋 裕之	
	杉山 律子	
	西海 正義	

グループ	氏 名	外部評価対象事業数
C グ ル ー プ	◎大島 千佳	<b>海老名市かがやき持続総合戦略事業評価【2施策・26事業】</b> ・基本目標1 若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てをしたい」を実現～ ・施策：結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～ ・取組の方向性：母子保健の推進【2事業】
	霜田 さよ子	子育て支援の充実【6事業】 保育環境の充実【3事業】 ひとり親家庭等の支援【3事業】
	武井 哲也	・基本目標2 まちのかがやきを持続する拠点性を高める ～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～ ・施策；高齢者と歩む地域コミュニティの形成 ・取組の方向性：高齢者福祉の充実【7事業】
	谷村 隆	健康寿命の延伸【5事業】

#### (4) 外部評価対象施策・事業

平成 30 年度の外部評価では、海老名市かがやき持続総合戦略事業（全 107 事業）のうち 70 事業について評価を行いました。

なお、“担当部課評価－内部評価－外部評価”と 3 段階での評価が行えるよう、外部評価と内部評価の対象事業は同一としています。

なお、対象事業一覧は 20～22 ページに記載しております。

#### (5) 外部評価の視点

評価の客観性及び透明性を高めるため、次の①から③に掲げる項目を外部評価の主な視点とし、「市民の目線・生活者の視点」で検証を行いました。

##### ① 事業等の必要性

市民ニーズや社会経済情勢などの変化により、当該事業等の必要性が薄れていないか等を評価しました。

② 事業等の有効性・効率性

当該事業等の実現手段として、将来の財政事情や社会経済情勢等の変化を見通した事業設計になっているのか、事業費の削減余地や類似する事業等と連携した効率的な執行ができないか等の観点で評価しました。

③ 行政評価調書・評価シート全般

個々の事業が一体何をしているのかが市民に伝わるよう、事業内容を的確に整理しているか、適切な指標を設定し、コスト縮減といった市の努力等がわかりやすく記載されているか等を評価しました。

### 3 事業別・施策別外部評価結果

それぞれ内部評価結果と合わせて、23 ページから 173 ページ “事業別評価結果” に記載しています。

#### 4 平成 30 年度外部評価を通じての総括意見

今年度の外部評価は、海老名市かがやき持続総合戦略の 70 事業を評価しました。かがやき持続総合戦略は「まち・ひと・しごと創生法」の制定を受けて策定されており、文字どおりまちのかがやきを創出させるものであるはずです。現在の海老名市は中心部の発展が著しく人口も増加傾向にあります。一方、将来的には人口減少が予測されることです。今の事業が現在の元気な海老名を支えるものとなっているか、より住みやすいまちづくりに向けられているか、を現在の視点のみならず長期的な視点も含め事業を評価するよう、外部評価委員一同心掛けました。

多くの事業が日々課題の克服に取り組んでいると感じる中で、特に教育行政については、人口減少社会において必要とされる社会的弱者に寄り添ったきめ細やかな取組が実施されており感心しました。より海老名市の教育行政の強みを生かすためにも、地域コミュニティと学校が一体となり長期的に大きな夢や目標に向かった施策が取り組まれることを期待します。

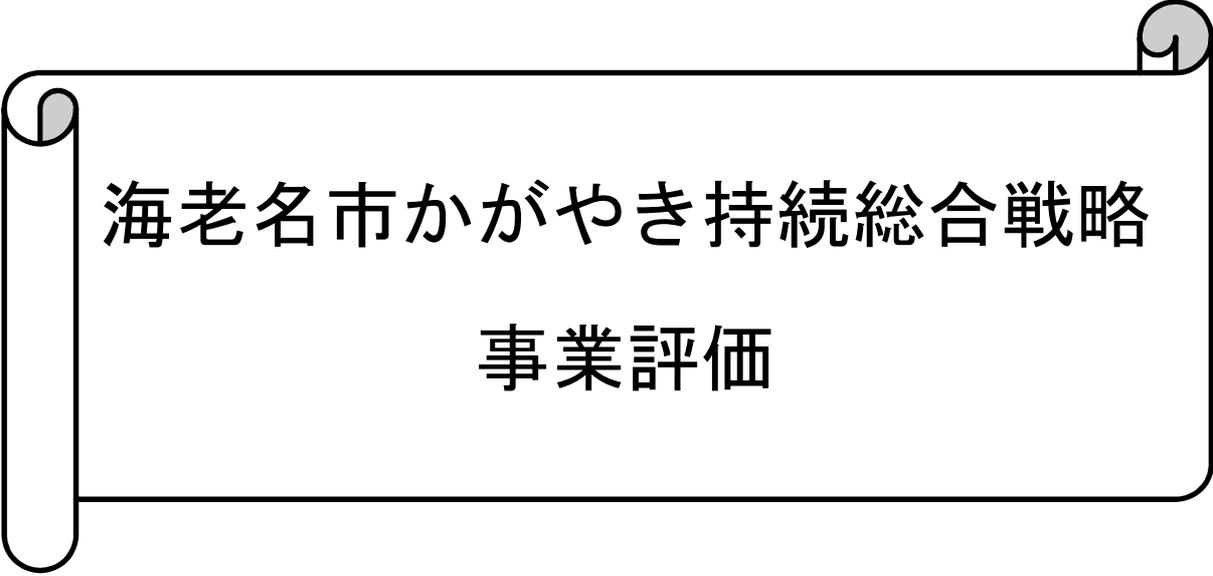
また、海老名駅西口を中心としたまちづくりは、規模が大きく海老名市のまちづくりの根幹となる事業です。市民のニーズを汲み取ることはもちろんですが、関係部署が十分な連携をとって事業を進めることで、組織的に事業が実施されることを望みます。

その他の事業も含め、海老名市がさらなる発展を遂げるためには、市職員が業務遂行において直面する課題に、最少の経費で最大の市民サービスが出来るような挑戦をお願いします。たとえ国や県において予算化された事業であっても、事業の先には市民がいて、将来の海老名市があるのですから、常に市職員としての気概を持って、日々の業務に取り組んでください。

また、常に業務の課題を見だし克服することは、行政評価にも当然に求められます。これまでの外部評価結果を生かす必要性は、毎年のように外部評価委員の声として挙げられていますし、行政評価調書において評価のコメントや決算額の記載が不十分であってはなりません。また、外部評価委員に伝わらない事業は、市民にも伝わらないのではないのでしょうか。今後は、調書の記載を充実させるなど、市民に事業を伝える気持ちがさらに示されることを期待します。

外部評価はチェックの機関ですが、その機能を活用して、各事業が市民の公共の福祉を増進して、海老名市の発展に寄与できるように、評価委員一同真剣に市の事業に向き合っていきたいと思えます。





海老名市かがやき持続総合戦略  
事業評価

内部評価・外部評価対象施策・事業一覧

No	基本目標	施策名	取組の方向性	事務事業名	所属		
1	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現～	<1-2> 教育環境の充実 ～えびなっ子の居場所づくり～  P23 施策評価 シート参照	ひびきあう教育の推進	ひびきあう教育の実践・研究	教育部 教育支援課		
2			子どもの居場所づくり	子ども・学校支援体制の構築	教育部 学び支援課		
3				学童保育支援事業	教育部 学び支援課		
4			学校施設の充実	学校施設の充実	小中学校の適正配置	教育部 教育総務課	
5					小中学校施設の整備	教育部 教育総務課	
6					きれいで居心地のよい学校づくり	教育部 教育総務課	
7					教育支援体制の充実	児童・生徒教材費支援	教育部 就学支援課
8						スクールライフサポート制度の充実	教育部 就学支援課
9						奨学金の給付	教育部 就学支援課
10						いじめのない学校づくり	教育部 就学支援課
11						学校相談員等の派遣	教育部 教育支援課
12						教育支援教室の充実	教育部 教育支援課
13						特別支援教育の充実	教育部 教育支援課
14						特別支援教育の就学奨励	教育部 教育支援課
15						ユースサポート事業	教育部 学び支援課
16	まちのかがやきを持続する拠点性を高める ～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～	<2-2> 地域公共交通網の整備  P55 施策評価 シート参照	総合交通対策の推進	コミュニティバスの運行	まちづくり部 都市計画課		
17				公共交通対策の推進	まちづくり部 都市計画課		
18			道路整備の推進	交流拠点における交通結節機能の強化	相模鉄道海老名駅総合改善連携事業	まちづくり部 市街地整備課	
19					さがみ縦貫道路関連道路の整備	まちづくり部 道路整備課	
20					幹線・準幹線道路の整備	まちづくり部 道路整備課	
21					歩道の整備	まちづくり部 道路整備課	
22	一般生活道路の整備	まちづくり部 道路整備課					

No	基本目標	施策名	取組の方向性	事務事業名	所属		
23	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現～	<1-3> 居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～  P71 施策評価シート参照	えびなっ子を守る	交通安全運動の推進	市民協働部 地域づくり課		
24				安全安心子どもパトロール事業	保健福祉部 保育・幼稚園課		
25				都市公園等の整備	まちづくり部 住宅公園課		
26				学校安全の確保	教育部 就学支援課		
27			交通安全の推進	交通安全施設の設置管理	まちづくり部 道路管理課		
28			防犯対策の推進	防犯対策の推進	市民協働部 地域づくり課		
29				交番設置の要望	市民協働部 地域づくり課		
30				消費生活相談	市民協働部 市民相談課		
31			住宅政策の推進	住環境の充実	まちづくり部 住宅公園課		
32				学生の定住促進	若者定住促進奨学金返還補助事業	教育部 学び支援課	
33					若者(学生)定住促進家賃補助事業	まちづくり部 住宅公園課	
34				危機管理の強化	危機管理体制の整備及び充実・強化	市長室 危機管理課	
35					避難設備等の整備	市長室 危機管理課	
36					災害時協力体制の構築	市長室 危機管理課	
37					地域防災力の充実・強化	市長室 危機管理課	
38					防災備蓄物品の整備	市長室 危機管理課	
39					防災行政無線局等の維持管理	市長室 危機管理課	
40				まちの魅力向上とシティセールスの推進 ～まちの魅力を創る、伝える、広げる～	<4-1> まちの魅力向上  P107 施策評価シート参照	住みたい住み続けたい まちづくりの推進	まちの美化の推進
41			都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進				まちづくり部 都市計画課
42	美しい景観の形成	まちづくり部 都市計画課					
43	空き地・空き家の適正管理	まちづくり部 住宅公園課					
44	放置自転車対策	まちづくり部 市街地整備課					

No	基本目標	施策名	取組の方向性	事務事業名	所属	
45	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ～「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現～	<1-1> 結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～  P119 施策評価シート参照	母子保健の推進	母子の健康指導	保健福祉部 こども育成課	
46				母子健康診査の推進	保健福祉部 こども育成課	
47			子育て支援の充実		子育て支援事業	保健福祉部 こども育成課
48					子どもが健やかに育つ環境づくり	保健福祉部 こども育成課
49					子ども医療費の助成	保健福祉部 国保医療課
50					子育て支援センターの運営	保健福祉部 子育て相談課
51					私立幼稚園児への給食の提供	保健福祉部 保育・幼稚園課
52			幼稚園就園の支援	保健福祉部 保育・幼稚園課		
53			保育環境の充実		民間保育所施設整備費の助成	保健福祉部 保育・幼稚園課
54					子育て支援施設型給付費の支給	保健福祉部 保育・幼稚園課
55					民間保育所運営費の支援	保健福祉部 保育・幼稚園課
56			ひとり親家庭等の支援		ひとり親家庭等医療費の助成	保健福祉部 国保医療課
57					ひとり親家庭等の支援	保健福祉部 こども育成課
58					要保護家庭生活支援事業	保健福祉部 子育て相談課
59	まちのかがやきを持続する拠点性を高める ～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～	<2-3> 高齢者と歩む地域コミュニティの形成  P149 施策評価シート参照	高齢者福祉の充実	高齢者の生きがいづくり	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
60				高齢者の就労支援	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
61				地域包括支援センターの運営支援	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
62				ひとり暮らし高齢者等の在宅支援	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
63				長寿祝い事業	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
64				医療・介護連携推進事業	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
65				地域の実情に応じた介護支援事業	保健福祉部 地域包括ケア推進課	
66			健康寿命の延伸		健康の保持増進	保健福祉部 健康推進課
67					生活習慣病検診	保健福祉部 健康推進課
68					特定健康診査の補完診査	保健福祉部 健康推進課
69	介護・予防・生活支援サービス事業	保健福祉部 地域包括ケア推進課				
70	一般介護予防事業	保健福祉部 地域包括ケア推進課				

# 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	1	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現～
施策	1-2	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～

## 【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
合計特殊出生率	1.32	平成25年	1.46 (H31)	1.41 (平成28年)	神奈川県衛生 統計年報公表値

## 【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
教育施策への 市民満足度	—	—	55% (H30-H31実施の市政 アンケート)	市政アンケート	市政アンケート(「満足」 及び「やや満足」の割 合)
学童保育入所 待機児童数	0人	平成26年度	0人 (H31)	0人 (H29年度)	市資料
あそびっ子クラブ 参加人数	66,570人	平成26年度	67,000人 (H31)	68,866人 (H27)	市資料
えびなっ子スクール 参加人数	10,886人	平成26年度	12,000人 (H31)	10,972人 (H27)	市資料
まなびっ子クラブ 参加人数	—	平成26年度	2,000人 (H31)	3,097人 (H27)	市資料

## 【各評価】

	事業名	担当部課	評価	
			内部	外部
実施計画事業	1 ひびきあう教育の実践・研究	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	2 子ども・学校支援体制の構築	現状継続	現状継続	見直し継続
	3 学童保育支援事業	現状継続	見直し継続	見直し継続
	4 小中学校の適正配置	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	5 小中学校施設の整備	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	6 きれいで居心地のよい学校づくり	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	7 児童・生徒教材費支援	現状継続	現状継続	現状継続
	8 スクールライフサポート制度の充実	現状継続	現状継続	見直し継続
	9 奨学金の給付	現状継続	見直し継続	見直し継続
	10 いじめのない学校づくり	現状継続	現状継続	現状継続
	11 学校相談員等の派遣	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	12 教育支援教室の充実	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	13 特別支援教育の充実	現状継続	見直し継続	見直し継続
	14 特別支援教育の就学奨励	現状継続	現状継続	見直し継続
	15 ユースサポート事業	見直し継続	見直し継続	見直し継続

評価項目	評価基準		評価	
			内部	外部
(1)施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。		1	1
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている		
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある		
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある		
	4	その他		
(2)施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。		2	1
	1	順調である		
	2	やや遅延している		
	3	著しく遅延している		
内部評価コメント	次代を担う「元気なえびなっ子」を健全に育成するためには、小・中学校の児童生徒に対する支援や相談体制の充実、さらには学校施設の整備・改修は必要不可欠です。今後も、施策に係るそれぞれの事業について必要な見直しを図りながら、積極的に事業が展開されることを期待します。			
外部評価コメント	<p>施策の達成に十分な事業が配置されており、進捗もほぼ順調であると評価します。</p> <p>担当部課評価及び内部評価におきまして、事業統合が必要であるとの認識がありました。必要な統廃合を適宜実施しながら、事業の推進するようお願いいたします。</p> <p>また、事務量の膨大な業務は事務処理を簡略化して、市民も含む関係者の負担の軽減を図るべきです。特にいじめの早期発見、早期対応、再発防止は強く推進してください。</p> <p>全体的には、元気なえびなっ子を地域全体で支えるコミュニティスクールなど非常に素晴らしい事業を展開されて評価しています。目的・機能が明確でない組織をつくらないようにして重複がない運営をされるよう期待します。</p>			

事業別評価結果

No	1	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	ひびきあう教育の推進
事務事業名	ひびきあう教育の実践・研究		
担当部課	教育部 教育支援課		
目的	ひびきあう教育の具体的方策である「えびなっ子しあわせプラン」により、子どもたちが生涯にわたってしあわせに生きていくための「確かな学力」、「よりよい集団力」、「健康・安全力」を身に付けさせます。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	平成30年度から平成32年度の3年間においても第2期「えびなっ子しあわせプラン」として、引き続きに継続して取り組んでいきます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 地域コミュニティが希薄になっている現在において、教育に係る多くの大人と共に「みんなで育てる」姿勢を忘れることなく事業を推進し、子供の成長に係わる喜びを通じ地域コミュニティが形成されると考えられることから、更なる事業の見直しを行い継続されることを期待します。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 授業改善の手引き等については、学校現場をよく把握している教職員により作成されていることはとても評価できます。 また、当該事業を推進することにより、地域のコミュニティの活性化につながっていることから、今後も事業の見直しを図りながら継続してほしいです。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	ひびきあう教育の推進
事業	ひびきあう教育の実践・研究		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要がある			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	2	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	子どもの居場所づくり
事務事業名	子ども・学校支援体制の構築		
担当部課	教育部 学び支援課		
目的	地域の子どもは、地域で守る、育てる、支援する体制を構築するため各学校に応援団を組織し、地域が子どもや学校を支えている意識を高め、後の「おらが学校」につながる地域コミュニティ形成を図ってまいります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>これまで個別団体による学校支援が、応援団組織の立上げにより支援が集約されてきました。</p> <p>全校コミュニティスクール化により、実行部隊としての役割を担うため、引き続き継続し地域の学校支援団体として確立を目指していきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>全校コミュニティスクール(学校運営協議会)との連携により、学校応援団の活動が更に充実することで、それぞれの学校の特色に合わせた地域で子どもや学校を支える地域コミュニティの形成が図られることを期待します。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>現状の活動を集約してスタートしたので、ある程度やむを得ないと考えますが、地域、学校の特性を生かしながら、簡略な組織にして活動の充実、効率を図ってください。</p> <p>また、平成27年度に学校応援団を作り推進しているとのことですが、学童保護者や、一般地域住民に対してもアンケートを取る等の意見を聞き、今後の活動に活かしてください。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	子どもの居場所づくり
事業	子ども・学校支援体制の構築		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	3	3	3
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	3	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	子どもの居場所づくり
事務事業名	学童保育支援事業		
担当部課	教育部 学び支援課		
目的	放課後において、保護者に代わって保育を行う団体に対して適正な運営が行えるよう支援し、児童の健全育成を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	学童保育事業者の保育環境の充実を図るべく、運営補助は引き続き補助基準を国基準レベルにあわせ支援を図っていきます。併せて、国補助を活用した支援の範囲拡充の検討を図っていきます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を「見直し継続」に修正します。 市内小学校の児童数は減少傾向にあるものの、共働き世帯の増加等により学童保育のニーズは上昇傾向にあることから、保育環境の充実や安定運営のための見直しを行う必要があると判断し、「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	内部評価を支持します。 問題点の指摘にあるように学童保育のニーズの正確な把握は困難だと思いますが、この事業を充実することは、今後の社会生活にとって重要ですので、最大限の注力を注ぎ、対処してほしいと思います。 併せて、市独自の対応も取りやすいと思われますので、是非、斬新な仕組みの改善を図ってください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	子どもの居場所づくり
事業	学童保育支援事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	3	3	3
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	4	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	学校施設の充実
事務事業名	小中学校の適正配置		
担当部課	教育部 教育総務課		
目的	市内の小中学校の児童生徒数の変動と学校の規模や位置などを検討し、学校の適正配置により、教育環境の向上に努めます。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	維持更新コストの試算では、公共施設(再配置)計画を踏まえ、コストを十分に考慮した計画とすることが求められます。 今後も、児童生徒数の推計を考慮した複合化や再配置の検討などについて課題の整理を行い、計画策定を進めます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 学校施設再整備計画については、学校施設再整備計画策定検討委員会から更なる検討が必要とされており、児童生徒数の推計や施設の複合化など、中長期・超長期を見据えた見直しが必要なことから「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 総合計画等との整合性を十分に考慮された整備計画に期待します。更なる検討が必要と判断し、計画策定を延長したので、しっかりと結論を出していただきたいと思います。 とりわけ、計画内において、今後の海老名駅西口における人口増を踏まえながら、計画策定を進めてください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	学校施設の充実
事業	小中学校の適正配置		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	2	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	2	2	2
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	5	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	学校施設の充実
事務事業名	小中学校施設の整備		
担当部課	教育部 教育総務課		
目的	建設後又は改修後一定期間を経た校舎の施設・設備について、適正な時期に改修工事を行い、学習環境の整備・改善を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	<p>児童生徒の安全安心に関する整備を中心に、計画的に整備を進めていきます。</p> <p>なお、中学校については、現在学校施設再整備計画を策定中のため、改修工事については、安全安心に関する最小限の実施に留めます。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>平成30年9月に策定予定の学校施設再整備計画に合わせた見直しをする必要があることから見直し継続としますが、児童生徒の安全安心に関する整備は不備がないように進める必要があると考えます。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>学校施設再整備計画未成期間中においても、安全安心に関する改修工事のみならず、教育環境の向上に必要なことは適宜整備すべきであると考えます。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	学校施設の充実
事業	小中学校施設の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	2	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	6	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	学校施設の充実
事務事業名	きれいで居心地のよい学校づくり		
担当部課	教育部 教育総務課		
目的	児童生徒が安心して快適に学校生活を送れる環境を整える。 また、避難所予定施設として指定を受けているため、バリアフリー化や防災機能の強化を図る。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	公共施設再編(適正化)計画では、人口推計や施設の老朽化等から、コスト縮減を考慮した計画を求められています。 今後もコストを十分考慮しながらも、児童生徒が安心して快適に学校生活を送れる環境を整えるため、検討を進めます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 学校施設再整備計画に合わせた見直しが必要なことから見直し継続としますが、児童生徒が安心して快適に学校生活を送れる環境を整えるため、児童生徒の意見や要望も考慮しながら事業を進める必要があると考えます。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 学校施設再整備計画に合わせた見直しが必要なことは理解できますが、現段階においては、学校との連携を図りながら、緊急性を考慮した事業を推進していくことも必要であると考えます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	学校施設の充実
事業	きれいで居心地のよい学校づくり		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	7	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	児童・生徒教材費支援		
担当部課	教育部 就学支援課		
目的	保護者の教材費への負担軽減を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	この事業は3年を経過し、今後、支援策全体のバランスを考慮して検討していきます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 小中学校への入学時の保護者の負担軽減を図るといったことで事業効果は高いものと思われます。また、平成29年度から導入した小中学校への彫刻刀、中学校への柔道着の貸与は、無駄を省くといった良い取組であり、今後もこうした支援策について引き続き検討してください。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 教材費の支援は、保護者負担の軽減という面からも非常に高く評価します。一方で、今後における負担軽減策については、教育支援体制の方向性を明らかにした上で、全体計画の中での位置付けとして、しっかりと整理したうえで、事業を進めていただきたいと思います。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	児童・生徒教材費支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	8	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	スクールライフサポート制度の充実		
担当部課	教育部 就学支援課		
目的	経済的理由による就学困難な児童・生徒の保護者に対し、経済的援助を行い、義務教育の円滑な実施を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	経済状況も回復傾向にありますが、今後、援助費の拡充については、支援策全体のバランスを考慮して検討していきます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 経済的な状況がやや回復傾向にある中において、認定基準の見直しや支給時期の変更など、対象者の範囲を拡大することで、より効果的な事業の展開が図られています。 また、担当部課評価にもあるように、他の支援策とのバランスにも考慮する必要があります。そうした点も踏まえ、引き続き児童・生徒の就学環境の維持改善に向けた支援策の検討を図ってほしいです。
	外部評価	見直し継続	認定基準を適宜見直しを図っているなど、適切な経済的援助が行われています。 しかし、他の支援策とのバランスも考慮し、支援策全体の見直しの検討を図ってください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	スクールライフサポート制度の充実		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	9	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	奨学金の給付		
担当部課	教育部 就学支援課		
目的	経済的な理由で修学が困難な青少年に対し、支援します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	現状継続とし、必要に応じた改善に努めます。
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を修正します。</p> <p>平成29年度の対象者から成績要件を無くすなど制度の見直しが行われており、必要に応じた改善にも努められています。</p> <p>奨学金の支給額や対象人数の妥当性については判断が難しいところではありますが、本制度が真に必要とされる生徒に対して活用されるよう、支給方策の更なる検討も必要であると考えます。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>内部評価を支持します。</p> <p>本当に必要な青少年に対して、十分な支援が行われているのか、国県等の動きを把握しつつ検証すべきであるとともに、給付方策についても、青少年の現状を踏まえた上で、更なる検討も必要と考えます。</p> <p>今後は、民間の支援策などともタイアップすることも視野に入れて検討されることを期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	奨学金の給付		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	10	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	いじめのない学校づくり		
担当部課	教育部 就学支援課		
目的	いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>現在、海老名市立の中学校は落ち着いた状況にあります。学校組織作りの中で、常に1名配置するという考えではなく、小中一貫事業で配置される非常勤講師など予算のバランスを見て配置していきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を指示します。 いじめ対策支援の非常勤講師については、学校現場におけるいじめの実情に応じた配置を行うことで、より効果的な事業の展開につながるものと思われます。 他事業で配置される非常勤講師等とのバランスもあることと思いますが、引き続き、いじめの実態把握に努めるとともに、それに見合った人員配置が行われるよう柔軟な取組が必要と考えます。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 学校現場における問題を的確に把握し、早期解決が図られることを期待します。 なお、成果指標におけるいじめ認知件数については、中学校のみならず小学校の件数も記載するべきと考えます。(小学校1,177件、中学校97件) 特に、いじめについては、小学校からの早期発見・早期対応・早期解決と再発防止への未届けが肝要であり、また認知件数に現れない情報をも掌握できる次への体制づくりも期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	いじめのない学校づくり		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	2	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	3	3	3
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	11	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	学校相談員等の派遣		
担当部課	教育部 教育支援課		
目的	学校に心理の専門家等を派遣することで、学校教育相談体制の充実を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	平成29年度まで派遣していた「学校訪問相談員」を廃止し、教育支援センター相談員を市内全小学校に、定期的に派遣する新たなスクールカウンセラー制度を構築します。心の教室相談員、別室登校支援員の派遣は継続します。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 臨床心理士による「学校訪問相談員」は現在市内全小学校に1名派遣していますが、相談員間の情報共有による職務内容の精査などに課題があることから、教育支援センターから相談員を派遣する制度の構築や、他の支援事業との統合を視野に見直しを行う必要があると考えます。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 児童生徒個々に対してきめ細やかな対応がなされているとともに、早期解決が図られています。 また、教職員の時間的な負担軽減にもつながっており、今後もさらなる効果的な相談体制の確立に期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	学校相談員等の派遣		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	2	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	12	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	教育支援教室の充実		
担当部課	教育部 教育支援課		
目的	不登校児童・生徒に発達段階に応じた教育支援を行い、学校への復帰を支援します。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	引き続き、不登校児童・生徒の発達段階や個々の状況に応じた教育支援を行い、学校復帰や将来の社会的自立を目指します。事業内容についても、通室生の状況等を鑑み、見直しや改善を図っていきます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 学校現場との連携、個々の通室生の課題に対応できる指導員の配置を検討し、社会的自立に向け事業に取り組むことを期待します。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 通学生への支援については、きめ細やかな指導が行き届いており、充実した内容となっています。 また、不登校児童生徒への対応についても、学校へ戻すだけが目的ではなく、生徒の将来を見据えた社会的自立のための配慮が行き届いていると思います。 引き続き、個々の状況に応じた対応の改善を期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	<b>教育支援教室の充実</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要がある			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	13	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	特別支援教育の充実		
担当部課	教育部 教育支援課		
目的	特別な支援を必要とする児童・生徒が、安心して充実した学校生活を送れるよう、支援体制の整備・充実を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き、特別な支援を必要とする児童・生徒が、安心して充実した学校生活を送れるよう、支援体制の整備・充実を図ります。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を「見直し継続」に修正します。 介助的な支援を求める児童・生徒のニーズが高まっている中介助員の不足が危惧されることから、安心して学校生活を送れるよう介助員の任用方法等見直し事業の継続が必要と考えることから、「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	内部評価を支持します。 介助員不足の現状を踏まえ、任用方法の見直しを図ることが必要と考えます。 また、ことばや聞こえに課題のある児童生徒への指導の充実を図ってください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	特別支援教育の充実		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	14	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	特別支援教育の就学奨励		
担当部課	教育部 教育支援課		
目的	特別支援学級及び通常の学級に在籍する障がいのある児童・生徒の保護者負担の軽減を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き、国基準に基づき、特別支援学級及び通常の学級に在籍する障がいのある児童・生徒の保護者負担の軽減を図ります。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 国基準に基づき児童・生徒の保護者負担の軽減に努めることを期待します。また、市単独の支援について保護者のニーズの変化を把握し必要により見直しを行ってください。
	外部評価	見直し継続	今後も引き続き、保護者の視点となって、負担軽減に努めてもらいたいと考えます。また、スクールライフサポートとの事業統合も視野に入れ、事業運営のしくみを整理及び再構築し、円滑な運営と膨大な事務処理の徹底した軽減を図ってください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	特別支援教育の就学奨励		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	15	施策名	教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～
		方向性	教育支援体制の充実
事務事業名	ユースサポート事業		
担当部課	教育部 学び支援課		
目的	若者が抱える悩みに対応し、自立した社会生活をおくれるよう支援体制を強化します。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	平成28年度、29年度とそれぞれ10件程度の相談であったが、統計的には海老名市においても少なからずひきこもり等の方々が存在すると思われれます。よって、市民への周知方法を改善し、より若者支援室の存在を周知したいと考えています。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 ひきこもり等の実態を把握することは難しいため、若者支援室の周知方法の見直しを行うとともに、生活困窮者自立支援制度を所管するセクションとも連携し、情報共有することも必要と考えます。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 市民への周知方法については、是非とも見直しを図っていただきたいと考えます。 若者支援室の相談体制がさらに周知されることにより、悩みを抱えた若者の支援に繋がることを望みます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-2＞教育環境の充実～えびなっ子の居場所づくり～	取組の方向性	教育支援体制の充実
事業	ユースサポート事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	2	2
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



## 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	2	まちなかがやきを持続する拠点性を高める～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～
施策	2-2	地域公共交通網の整備

### 【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
海老名駅各駅乗降者数	270,411人/日 (小田急,JR,相鉄)	平成26年度	277,500人/日 (H31)	295,055人 (H28)	各鉄道会社公表値
市内路線バス利用者数	35,256人/日 (神奈中,相鉄バス)	平成25年度	36,600人/日 (H31)	32,750人/日 (神奈中、相鉄バス) (H28)	各バス事業者資料

### 【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
コミュニティバス利用者数	663人/日	平成25年度	686人/日 (H31)	都市計画課	市資料
市民の「最寄駅へのアクセス」に対する満足度	63.80%	平成25年度	64.4% (H30-H31実施の市政アンケート)	市政アンケート	市政アンケート (「満足」及び「やや満足」の割合)

### 【各評価】

	事業名	担当部課	評価	
			内部	外部
実施計画事業	16 コミュニティバスの運行	現状継続	現状継続	現状継続
	17 公共交通対策の推進	現状継続	見直し継続	見直し継続
	18 相模鉄道海老名駅総合改善連携事業	現状継続	現状継続	現状継続
	19 さがみ縦貫道路関連道路の整備	現状継続	現状継続	現状継続
	20 幹線・準幹線道路の整備	現状継続	現状継続	現状継続
	21 歩道の整備	現状継続	現状継続	現状継続
	22 一般生活道路の整備	現状継続	現状継続	現状継続

評価項目	評価基準	評価				
		内部	外部			
(1) 施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。					
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている	1	1		
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある				
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある				
	4	その他				
(2) 施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。					
	1	順調である	2	やや遅延している	1	1
	3	著しく遅延している	4	その他		
内部評価コメント	<p>地域公共交通網の整備は着実に進めていることを確認いたしました。</p> <p>今後、本市においても近い将来、人口減少を迎えることとなりますので、このような社会変化や背景を見据えながら、計画的な整備に努めていただきたい。また、道路整備については、引き続き市民の安全性・利便性の一層の向上を進めるとともに、快適な住環境となるような道路空間づくりに努めていただきたい。</p>					
外部評価コメント	<p>施策の推進において、事業が適切に配置されていると認めます。事業の達成度を確認すると、施策はほぼ順調に推進されています。</p> <p>高齢化、人口減などの社会的条件を勘案した快適でコンパクトなまちづくりは、長期的に推進しなければなりません。公共の福祉を担う行政と私権が衝突する場面もありますが、その場合にはもう少し踏み込んだ事業の推進を期待します。</p> <p>また、公共交通網の整備は、バスだけでなく多様な手段の検討も必要かと思われます。</p>					

事業別評価結果

No	16	施策名	地域公共交通網の整備
		方向性	総合交通対策の推進
事務事業名	コミュニティバスの運行		
担当部課	まちづくり部 都市計画課		
目的	既存の鉄道やバスが利用しづらい地域における公共交通の充実と利便性向上の促進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>平成29年度は3ルート体制になり初めて年間利用者数が25万人を越えました。これは、多くの方に利用されている何よりの証です。しかしながら、高齢化や人口減少等の社会構造の変化の中でも、必要とされ持続可能な公共交通網として進化するため、必要な改善や研究を行っていきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。 全国的にもバス利用者が減少傾向にある中、29年度実績は、前年度との比較で増となっています。これは、28年度からの新たな取り組みや29年度実施いたしました乗降者数調査など、利用促進に努めた成果でもあります。今後も利用者等のニーズを把握し、安定的な事業推進に努めてください。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 市内における交通網の整備については、市民にとって居住の重要な条件となりえるので、様々な工夫を凝らしながら改善が図られることを期待します。 また、コミュニティバスの運行本数については、利用者ニーズを踏まえ、至急増便を検討されることを期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	総合交通対策の推進
事業	コミュニティバスの運行		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	2	2
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	17	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	総合交通対策の推進
事務事業名	公共交通対策の推進		
担当部課	まちづくり部 都市計画課		
目的	公共交通の充実と利便性向上の促進を図るとともに、市内各駅とその周辺地区における課題解決や利便性向上を図ります。また、事故・災害時などの有事における駅滞留者対策を推進します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>鉄道に関する要望は、長期的視点に立ち時期を捉えた活動を継続します。</p> <p>また、災害等の危機対処に関連する各駅長、警察、市危機管理課等との連携を密にするため、継続して会議を開催していきます。</p> <p>広域的なバス網の整備に関しては、海老名駅と寒川駅を結ぶ路線バスについて、引き続き国庫補助を活用しながら行政として支援を行い、利用の増加を目指します。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を「見直し継続」に修正します。</p> <p>平成29年度、海老名駅周辺において、帰宅困難者対策訓練を実施し、訓練を通じて様々な課題等も確認できたとのことでした。今後は、更に鉄道事業者やバス事業者等関係機関との連携強化を深め、大規模災害における役割等を整理し、協力体制の構築を進めることを期待します。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>内部評価を支持します。</p> <p>大規模災害時における駅滞留者への対応として、各関係機関等としっかり連携を図り、スピーディーかつ丁寧な対応がとれる体制を構築してください。</p> <p>また、海老名駅周辺における帰宅困難者対策訓練については、非常に意義のあるものであることから、継続実施していただきたいと考えます。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	総合交通対策の推進
事業	<b>公共交通対策の推進</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	18	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	交流拠点における交通結節機能の強化
事務事業名	相模鉄道海老名駅総合改善連携事業		
担当部課	まちづくり部 市街地整備課		
目的	昭和48年開業の相模鉄道海老名駅の耐震化を含めた建て替えや改札口の増設等に協力することで、乗換の円滑化、混雑緩和等、利用者の安全性・利便性の向上を促進します。また、地域のニーズに沿った生活支援施設(保育施設)を整備を支援することで、駅機能の高度化を図ります。総事業費は約50億円、国庫補助の採択期間は平成27年度から平成31年度の5カ年となります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き施行の進捗状況の確認や他施策との連携を考慮し、駅舎整備計画の内容について協議を行います。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 相模鉄道海老名駅総合改善連携事業の進捗確認や安全な工事の実施を推進していくため、引き続き法定協議会の適切な運営を行っていく必要があります。 また、関連する他事業との連携を考慮した整備が図られるよう協議していく必要があります。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 関連する他事業者との連携を密にしながら、今後の工程スケジュールが円滑に進むことを望みます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	交流拠点における交通結節機能の強化
事業	相模鉄道海老名駅総合改善連携事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	2	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	3	3	3
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要がある			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	19	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	道路整備の推進
事務事業名	さがみ縦貫道路関連道路の整備		
担当部課	まちづくり部 道路整備課		
目的	さがみ縦貫道路を起因とした道路交通及び相模川沿いに集中し生活道路に流入している通過交通に対処することで、住環境の改善・維持を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>さがみ縦貫道路全線開通により、海老名インターチェンジ周辺地区の交通渋滞並びに相模川沿線の生活道路への車両流入の対策を図るべく、過年度より事業進捗を図ってまいりました(仮称)市道53号線バイパスが、平成30年3月29日に全線供用開始されました。</p> <p>今後は、バイパス供用開始後の交通量を把握し、状況に適した交通対策を講じていきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>市道53号線バイパスは、関係者との協議を重ね長い月日を経て、ようやく供用開始となりました。周辺地区の交通渋滞も解消されることが期待しています。市道62号線については、地権者との協議に苦慮されているようですが、引き続き協議を重ね、交通対策の推進に努めてください。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>市道62号線整備事業については、引き続き地道に地権者との協議を重ね、早期の工事着工に向け取り組んでほしいと考えます。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	道路整備の推進
事業	さがみ縦貫道路関連道路の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	20	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	道路整備の推進
事務事業名	幹線・準幹線道路の整備		
担当部課	まちづくり部 道路整備課		
目的	安全と快適な生活環境の向上のため、市内幹線道路網を計画的に整備し、都市基盤整備を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	道路交通マスタープランに位置付けされた幹線、準幹線について優先順位を見定め、拡幅改良事業を継続いたします。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 事業計画にある市道8号線及び市道3号線、共に基礎資料を作成し、拡幅改良事業も着手いたしました。今後も、課題にあるとおり、市道8号線の安全対策に係る調整も含め「現状継続」とします。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 今後においても、道路交通マスタープランを適宜見直すとともに、計画に位置付けられた幹線、準幹線の拡幅改良事業の継続を進めてください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	道路整備の推進
事業	幹線・準幹線道路の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	21	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	道路整備の推進
事務事業名	歩道の整備		
担当部課	まちづくり部 道路整備課		
目的	歩行者の通行量が多く、安全な歩行導線の確保を要する市道において、歩車道の分離を図ることで、歩行者の安全性、快適な道路空間を確保します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き、歩行者の通行量が多く、安全な歩行導線の確保を要する市道において、歩車道の分離を図り、歩行者の安全性、快適な道路空間を確保します。
	内部評価	現状継続	担当部課の評価を支持します。 本事業は、歩行者の安全・安心を確保するための重要な事業です。今後、高齢者の増加も見据え、車いすを使用される方たちも円滑な移動ができるよう、計画的な歩道のバリアフリー整備を進めてください。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 自治会等からの要望等を踏まえ、優先順位を整理した上で、実施可能な箇所から整備を進めていただき、交通弱者が安心して通行できる歩道の確保を望みます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	道路整備の推進
事業	歩道の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	22	施策名	コンパクトでにぎわいのある拠点づくり
		方向性	道路整備の推進
事務事業名	一般生活道路の整備		
担当部課	まちづくり部 道路整備課		
目的	市民生活に密着した生活道路の整備を図ることで、住環境の改善、安全性を確保します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	生活道路事業については、自治会要望によるものが殆どであり、今後についても、要望に沿った整備が早期に実現できるよう調整を図ってまいります。
	内部評価	現状継続	担当部課の評価を支持します。 地域の快適な生活環境を提供していくためには、生活道路の整備は欠かせない事業です。今後も自治会からの要望を聴取しながら、その緊急度等を勘案し計画的な整備に努めてください。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 今後も、自治会要望を聴取しながら、計画的な整備を進めてください。 一方で、将来的に海老名駅自由通路と文化会館の間にマンションが計画されていることから、周辺道路の渋滞を緩和するための整備計画も検討を望みます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-2>地域公共交通網の整備	取組の方向性	道路整備の推進
事業	一般生活道路の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



## 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	1	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～「海老名市で結婚、出産、子育てをしたい」を実現～
施策	1-3	居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～

### 【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
合計特殊出生率	1.32	平成25年	1.46 (H31)	1.41 (平成28年)	神奈川県衛生 統計年報公表値

### 【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
交通事故発生件数	463件	平成26年度	440件 (H31)	391件 (H29)	かながわの交通事故 (神奈川県警察)
刑法犯認知件数	1,055件	平成26年度	999件 (H31)	1,052件 (H28)	犯罪統計資料 (神奈川県警察)
自主防災訓練 参加者数	4,013人	平成26年度	4,220人 (H31)	4,117人 (H29)	市資料

### 【各評価】

	事業名	担当部課	内部	外部
実施計画事業	23 交通安全運動の推進	現状継続	現状継続	見直し継続
	24 安全安心子どもパトロール事業	現状継続	現状継続	見直し継続
	25 都市公園等の整備	現状継続	現状継続	見直し継続
	26 学校安全の確保	現状継続	現状継続	現状継続
	27 交通安全施設の設置管理	現状継続	現状継続	現状継続
	28 防犯対策の推進	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	29 交番設置の要望	現状継続	現状継続	現状継続
	30 消費生活相談	現状継続	現状継続	見直し継続
	31 住環境の充実	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	32 若者定住促進奨学金返還補助事業	現状継続	現状継続	現状継続
	33 若者(学生)定住促進家賃補助事業	現状継続	見直し継続	見直し継続
	34 危機管理体制の整備及び充実・強化	見直し拡大	見直し拡大	見直し拡大
	35 避難設備等の整備	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	36 災害時協力体制の構築	見直し拡大	見直し拡大	見直し拡大
	37 地域防災力の充実・強化	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	38 防災備蓄物品の整備	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	39 防災行政無線局等の維持管理	見直し継続	見直し継続	見直し継続

評価項目	評価基準		評価	
(1)施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。		内部	外部
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている	1	4
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある		
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある		
	4	その他		
(2)施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。		内部	外部
	1	順調である	1	1
	2	やや遅延している		
	3	著しく遅延している		
内部評価コメント	「まち・ひと・しごと」の好循環の確立に向け、各種事業とも概ね順調に推移しているものと評価します。また、社会的な課題である人口減少社会の克服に向けては、「安全安心に暮らせる」ことは必須条件であり、今後も積極的な取組を期待します。また、若者の奨学金返還問題に着目した事業については、社会ニーズに合致したことにより、大きな成果を挙げていると評価します。今後も社会情勢や市民ニーズを的確に把握し、時流に即した取組を市内で進めることが重要と考えます。			
外部評価コメント	防災訓練のためだけに市民を集めるなど事業が単一化されており参加市民の層や数に限界も感じます。小学校の運動会競技に防災訓練の要素を取り入れれば新たな参加者層が取り込めそうなど、新しい視点や多角的な視野から事業にチャレンジすることを期待します。また、危機管理においては、市民に委ねる部分をはっきりさせることが重要であり、結果として意識向上に役立つはずで			

事業別評価結果

No	23	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	えびなっ子を守る
事務事業名	交通安全運動の推進		
担当部課	市民協働部 地域づくり課		
目的	市民一人ひとりの交通安全意識の高揚、交通ルールやマナーの普及を図ります。また、地域や関係機関と連携し、交通事故の防止に努めます。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	高齢者等の更なる交通事故防止を図るため、新たに神奈川県警のシュミレーション機器などを活用した啓発活動を積極的に進めてまいります。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 近年高齢者による交通事故が多発している中で高齢者を対象にした交通安全教室の開催や、小、中学校での自転車教室の実施など交通事故防止に努め、また、昨年から安全・安心フェスティバルを西口で開催したことにより、催し物の拡大、さらには大勢の市民の参加が得られたことは、交通安全意識の向上につながることから「現状継続」とします。
	外部評価	見直し継続	近年の高齢者による交通事故等を踏まえるなど取組に工夫は感じられます。一方で限られた予算で実施するには中長期的な戦略が必要であり、その延長線上で年度ごとに地域や対象者を絞り込むことが有効です。メリハリをつけてチャレンジすることを期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	えびなっ子を守る
事業	交通安全運動の推進		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	2
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	3
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	2
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	1	2	3

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	24	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	えびなっ子を守る
事務事業名	安全安心子どもパトロール事業		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	市内認可保育園及び私立幼稚園の児童の安全を守ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	犯罪防止効果については数字に表しにくいものの、保護者や園にとっての安心感にもつながっていることから、今後も継続して当該事業を行いたいと考えます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 警察官OBが警備に即した服装で巡回することは、保護者はもちろん保育園で働く人や回りの住民も安心して生活ができる環境を作ることとはとても重要と考えることから「現状継続」とします。
	外部評価	見直し継続	児童の安全を守る大切な事業ですが、限られた予算のなかで最大限の効果を見込むためには、これまでとは異なったアプローチが必要です。 その解決策の一つが地域住民との協働だと思われるので、どうしたら協力を得られるのか知恵を絞って取り組むことを期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	えびなっ子を守る
事業	<b>安全安心子どもパトロール事業</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	3
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	25	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	えびなっ子を守る
事務事業名	都市公園等の整備		
担当部課	まちづくり部 住宅公園課		
目的	都市公園等を再編することや既存の公園を再整備することで、自然とのふれあいの場・憩いの場としての活用のみならず、高齢化や防災対応も考慮して幅広い世代に親しまれる公園を目指すとともに、安全・安心な機能強化を視野に入れた公園整備について検討します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	社会情勢や地域ニーズを踏まえて計画的に市内公園等の整備を進め、遊具や公園施設等適正な修理、工事などにおいて更新していきます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 子供たちや幅広い世代が、安全・安心に公園を利用するには、遊具の更新やまた、災害に備えた公園施設の整備改修は必要であることから「現状継続」とします。
	外部評価	見直し継続	安心・安全な公園の整備には、維持管理だけでは住民ニーズに応えられない無駄な予算使用になりかねません。遊具の更新をせず撤去して芝生を張るなど、一律的な公園イメージを払拭し「今後の在り方」を今から考えることが必要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	えびなっ子を守る
事業	都市公園等の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	2
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	4
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	3
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	1	1	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	26	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	えびなっ子を守る
事務事業名	学校安全の確保		
担当部課	教育部 就学支援課		
目的	登下校及び学校生活における児童・生徒の安全確保の充実を図るとともに、保護者への安全意識の啓発を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き登下校及び学校生活における児童・生徒の安全確保の充実を図るとともに、保護者への安全意識の啓発を図ります。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 安全監視員の配置、青色パトロールでの巡回など、子供たちが安全に登下校出来ることと、不審者情報の提供は保護者にとって安心して子供たちを学校に通学させることが出来るなど、子どもの安全確保は非常に重要なことから「現状継続」とします。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 児童の安全を守る大切な事業ですが、予算の有効活用の観点から、安全確保には何が重要なのかを常に考え、多方面からの意見聴取など、多角的な検証を踏まえ実施することが必要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	えびなっ子を守る
事業	<b>学校安全の確保</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	27	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	交通安全の推進
事務事業名	交通安全施設の設置管理		
担当部課	まちづくり部 道路管理課		
目的	交通事故多発箇所や危険性のある道路等における交通の安全と円滑化・交通事故の防止を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	道路反射鏡及び区画線、カラー舗装の設置要望及び交通事故多発箇所の対応など継続的な実施が必要なため、現状継続としました。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 道路利用者を対象に事業実施をしており、施設整備の観点から交通安全を図っています。 担当課の課題にもあるように、道路反射鏡の映り込みは、車両が中心となっており、本来守られるべき歩行者や自転車に対応するには、慎重な研究が必要とされています。道路反射鏡等の形状などに課題もあるかと思いますが、引き続きの研究を促し、担当課の評価を支持します。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 車両を対象とするカーブミラーの設置は、施策内の事業としてはミスマッチ感がありますが、必要性は認められることから、事業の継続は必要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	交通安全の推進
事業	交通安全施設の設置管理		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	28	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	防犯対策の推進
事務事業名	防犯対策の推進		
担当部課	市民協働部 地域づくり課		
目的	安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、「市内に犯罪を持ち込ませない」「犯罪を逃がさない」「犯罪を許さない」をコンセプトに関係機関と連携し、地域自主防犯組織の強化と支援、さらに、地域防犯意識の向上を図り、犯罪抑止力を高めるため、様々な防犯対策を講じます。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	機器等の部品製造が終了している緊急通報装置の早期撤去と防犯カメラ設置などの代替策の対応について、関係機関・部署との調整を図りながら速やかに進めてまいります。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 様々な視点からの事業を実施しています。事業の一つである緊急通報装置について、経年劣化と部品製造終了により交換時期の到来したものから、より犯罪抑止力効果が高いとされる防犯カメラに移行をしています。また、地域での防犯活動強化のため、補助事業を統合し、地域の事務手続きの煩雑化を軽減できる取り組みをしており、担当課評価と同様の見直し継続とします。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 防犯カメラの有効性については理解できますが、あくまでも手段の一つに過ぎません。目的を見据えて絶えず工夫を凝らして実施されることを期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	防犯対策の推進
事業	<b>防犯対策の推進</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	29	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	防犯対策の推進
事務事業名	交番設置の要望		
担当部課	市民協働部 地域づくり課		
目的	神奈川県に対して、さがみ野駅前交番設置に向けた準備と海老名駅西口交番の早期新設の要望をすることで、市民の治安維持、安全性の向上を図っていきます。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	平成30年度にさがみ野駅前南口交番が完成する見込みであることから、海老名駅西口への交番設置要望を継続して行います。
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。 さがみ野駅南口交番と海老名駅西口交番設置に限定した事業であり、すでに平成30年度中にさがみ野駅南口交番を完成するための建設準備について、関係者と調整がなされ一定の目途がついています。</p> <p>引き続き、さがみ野駅南口交番の開設に向けた進捗管理とともに、海老名駅西口交番の開設に向けた設置要望に取り組むことから現状継続とします。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 海老名駅西口への交番設置は、治安維持や犯罪防止のために重要な役割を果たすことが期待されます。</p> <p>しかし、県内において新規交番設置の見込みが低いという中で、市内の他交番の廃止と引き換えにしてまでも必要かという否との検討結果です。交番がなくても困らない新しいまちづくりに期待しつつ長く地道な諸活動を続けていくことが肝要と思います。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	防犯対策の推進
事業	<b>交番設置の要望</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	30	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	防犯対策の推進
事務事業名	消費生活相談		
担当部課	市民協働部 市民相談課		
目的	悪質商法や多重債務など、多様化・複雑化する消費者問題から消費者を救済・自立を支援し、消費生活の安全と安心を図ります。また、消費生活や消費者問題についての正しい知識の普及と啓発に努めていきます。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	悪質商法や多重債務など、多様化・複雑化する消費者問題から消費者を守るために、相談と啓発に努めていきます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 悪質商法や多重債務の意識啓発として、犯罪に巻き込まれないための普及啓発活動事業実施しています。ひとりでも多くの市民が参加しやすいよう事業の開催日の工夫をし、所管課の努力を感じます。 担当部課では課題を認識しており、より効果を図るためにもピンポイントの年代を対象とするために、引き続きの工夫や研究を行いながら、担当部課評価を支持し「現状継続」とします。
	外部評価	見直し継続	消費生活センター機能については、ゴミや消防のような3市広域対応が相応しいと思います。結果としてサービス提供時間の延長等のメリットが期待されるのではないのでしょうか。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	防犯対策の推進
事業	消費生活相談		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	3
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	3
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	31	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	住宅政策の推進
事務事業名	住環境の充実		
担当部課	まちづくり部 住宅公園課		
目的	ゆとりある住みよいまちづくりを目指し、市民の住環境の向上や定住促進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	マンション相談は継続することはもとより、住宅リフォーム事業は3カ年の予定帰結年度であることから、住宅政策的要素の強い「三世代同居支援リフォーム助成金と空き家利活用促進リフォーム助成金」に絞り込んで実施することとし、申請者対象者を拡大。より申請しやすくなる工夫を行いました。予算規模的には縮小しましたが、住宅政策観点では充実させたことから見直し継続とします。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 住宅リフォーム助成事業については、住環境の向上という目的に対しては有効な事業であると考えます。一方、定住促進への効果については的確な効果検証が求められます。リフォーム助成を受けた後の定期的な居住状況の把握や、助成金額の妥当性などを検証することにより、さらなる効果的な事業となるような見直しを続けていただくことが重要と考えます。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 経済的に恵まれた市民への助成という観点や永住促進の観点、市内事業者育成の観点など様々な観点からの課題も見えてきたと思います。十分に検証検討し、今後の住宅政策に生かしてしてください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	住宅政策の推進
事業	<b>住環境の充実</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	2	2
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	3	3
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	3

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	32	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	学生の定住促進
事務事業名	若者定住促進奨学金返還補助事業		
担当部課	教育部 学び支援課		
目的	平成27年度に策定した「海老名市かがやき持続総合戦略」の取組の方向性の一つとして位置付けた若者定住促進策を実現するための事業の一つです。これは、海老名市人口ビジョンによる分析結果において、本市における10歳代後半から30歳代前半までの転入の増加傾向がみられていることから、この特徴をさらに伸ばすことで、総合戦略の目的を達成することを目的とします。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>全国的にも例のない事業で、若者の定住促進策として転入促進と転出抑制を目的に自ら奨学金を返還している社会人(若者)に対し支援しています。</p> <p>海老名市に住んでいただくことで、住みやすさ、市の魅力を感じていただき、将来を考えるきっかけになってまいります。</p> <p>昨今の奨学金問題と若者の自立支援を踏まえ、若者定住促進策として現状の補助金交付要綱により継続したいと考えます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>過大な奨学金の返還が社会問題となっている中、市民ニーズや時流を見極めた事業であると評価します。また、交付決定212名のうち市外からの転入者が126名と6割強を占めており、転入促進に大きな役割を果たしております。</p> <p>転入後の居住状況や勤務状況の把握・分析を的確に行うことにより、効果検証に努めていただくことを期待します。また、現在の市のまちづくりとの相乗効果により、「住みたい 住みつづけたいまち 海老名」の実現に寄与することが期待されます。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>特定の個人に多額の税金を使用することや、特定の期間のみでは世代間の公平が保てないなど、種々の疑念はあるものの新しい事業に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>広い視点で課題をとらえ、制度検証をしっかりと行い、より効果的な事業となるよう見直しを実施してください。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	学生の定住促進
事業	<b>若者(学生)定住促進奨学金返還補助事業</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	1	1	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	33	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	学生の定住促進
事務事業名	若者(学生)定住促進家賃補助事業		
担当部課	まちづくり部 住宅公園課		
目的	平成27年度に策定した海老名市かがやき持続総合戦略の取組の方向性の一つとして位置付けた、「学生の定住促進策」を実現するための事業の一つです。これは、昨年度策定した海老名市人口ビジョンによる分析結果において、本市における10歳代後半から30歳代前半までの転入の増加傾向がみられていることから、この特徴をさらに伸ばすことで、総合戦略の目標を達成することを目的としております。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	平成29年度から制度として確立した事業であることから、計画期間である4年間は現状継続します。 多彩なメディアでのPR効果が大きいことから、シティプロモーション課と連携したPRを実施していきます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を「見直し継続」に修正します。 事業の性質上、制度の継続には理解するが、実績が当初の想定からは大きく乖離していることから、様々な角度からの見直しも必要ではないでしょうか。上記の担当部課評価についても、平成29年度の実績や効果をどのように受け止めているのかが伝わりません。事業開始2年目である平成30年度の状況が今後の動向を大きく左右すると思われるので、その結果に応じた大胆な見直し(廃止も含めた)を期待します。
	外部評価	見直し継続	内部評価を支持します。 新しい事業に取り組まれた姿勢については評価します。平成29年度事業により見えた課題を検証し、平成31年度以降はより良い若者定住促進制度として効果的な事業となるよう検討を望みます。結婚・子育て等の当世代前後にある制度と連携してアピールすることも重要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-3>居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	学生の定住促進
事業	<b>若者(学生)定住促進家賃補助事業</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	2	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	2	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	3	3	3
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	3

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	34	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	危機管理体制の整備及び充実・強化		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	市民等の生命、身体及び財産に及ぼす被害、損害、影響等を未然に防止し、及び最小限にとどめるため、危機管理体制の整備及び充実・強化を図ることを目的とします。		
総合評価	担当部課評価	見直し拡大	<p>社会情勢の変化等を観察し、危機事象の調査研究を行い、危機管理基本方針、地域防災計画、国民保護計画及び危機管理計画について、研修・訓練等を通じて検証を行うとともに、必要に応じて修正を行い事業を継続します。</p> <p>また、平成30年度から「風水害等対策支援サービス」を本事務事業に統合し、民間気象予報会社の24時間気象観測により水防対策業務の充実・強化を図ります。</p>
	内部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>危機管理体制の整備には「万全」という概念はなく、様々な状況を想定しながら常に充実・強化を図ることが求められるものと認識しています。</p> <p>今年度の新たな取組として、気象情報サービスを活用した水防対策の強化が予定されており、事前防災の観点からも有効的な取組となることを期待します。</p> <p>さらに各種計画・方針等についても現状や課題を踏まえた内容となるよう検証を重ねることを期待します。</p>
	外部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>様々な想定被害状況ごとに対応策が異なり準備も多岐に渡りますが、行政も被災者になる認識をもち、取組みが困難な部分も含めて訓練をすることが大切です。非常時には『想定外のことが起こることは当然』という意識を強く持ち対応していただきたいです。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	危機管理体制の整備及び充実・強化		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	2	2	2
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	2	2	2
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	1	1	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	35	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	避難設備等の整備		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	災害時等における市民の円滑な避難誘導等を行うため、避難設備等の整備及び維持管理を行います。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	避難所予定施設の非常用発電設備を引続き適正に維持管理しながら、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーを利用する電力供給システムの調査研究を行います。
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。 災害時等における市民の避難誘導標識については、国籍を問わず誰にでもわかる表記にする必要があると考え、引き続き設置促進に努めて頂きたい。</p> <p>また、新たな非常用発電設備の供給法については、太陽光発電や再生可能エネルギーを利用する電力供給システムへの調査については、中長期的にコストの低減が期待されるため、次回の更新までに調査・研究する必要があると考え「見直し継続」とします。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 光源確保のための非常用発電設備はLED化の進展と共に必要電力量が極小化しています。一方スマートフォンの充電対応など既存設備のみでは対応が難しい側面もあり、適切な非常用電源の研究をすることが必要です。</p> <p>また、市民個人に委ねる部分と行政が担当する部分とを明確にし、市民に一定程度任せることが肝要です。このことはむしろ、市民の意識向上にも繋がると考えられます。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	<b>避難設備等の整備</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	36	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	災害時協力体制の構築		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	市民や事業所等がそれぞれの分野から、それぞれの登録制度にあらかじめ登録し、災害時に市と協働し、迅速な災害応急対策活動に資することを目的とします。		
総合評価	担当部課評価	見直し拡大	平成30年度から災害時に地域住民が生活用水を使用できるよう災害時協力井戸登録制度を創設します。
	内部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>災害時に市民とさまざまな分野において協働し、協力体制を整えることは行政の責務である。復旧に向けての農地所有者への協力や、軽トラックなどの災害時協力車両の登録制度は引き続き進めていく必要がある。</p> <p>新たな制度として、生活に必要な生活水の確保に向けた取り組みは、更なる災害時協力体制の強化に繋がることから「見直し拡大」とします。</p>
	外部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>協力井戸制度など平時に協力体制を準備しておく必要性については理解できますが、災害の規模程度によって協力してもらえない場面があることや、被害を受けて使えないことも考えられます。</p> <p>準備しておくに越したことはありませんが、市民の『協力し合う意識』の醸成が、災害対策の根本的な体制として必要です。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	<b>災害時協力体制の構築</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	2	2
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	2	2	2
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	37	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	地域防災力の充実・強化		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	自主防災組織の結成・訓練等を促進することにより、地域防災力の充実・強化を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	自主防災訓練や避難所運営訓練において、参加者が年々増加しているものの、ほとんどが土日に実施されているにもかかわらず、参加者にとっては若年者の参加率が低い状況から、働き盛りの若い人たちが更に防災に関心をもって積極的に参加してもらえよう、実践的な訓練内容に工夫していく必要があると考えます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 平成29年度の自主防災訓練への参加については、悪天候等により若干の減少はあるものこれまで同様の高い水準での参加数である。しかし、社会情勢や就業形態の変化などにより若年者への関心は低いように感じます。今後は働き盛りの若年者への訓練参加が災害対応へ必須であることから「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 普段訓練に出ていない市民も、災害時に対応できる仕組みづくりが必要です。防災訓練だと参加しない市民でも、運動会のイベントで防災訓練があめば必然的に訓練に参加できるので、他組織との連携等も含め視野を広げた検討が有効です。 これまでとは異なる切り口、異なる視点を持って、訓練に誰もが参加しやすい環境づくりを検討してください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	地域防災力の充実・強化		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	2	2	2
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	2	2	2
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	1	1	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	38	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	防災備蓄物品の整備		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	災害時における避難者等の安全を確保するため、食料、生活必需物資等の整備・維持管理を行います。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	食料の備蓄数を25万食とするため、東日本大震災により生じた賞味期限の偏りを整理するとともに、毎年度購入する食料数、種類等の整理を行います。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 食料の備蓄確保については、県の被害想定の見直しに併せ、備蓄数の設定しています。賞味期限の偏りや食料の種類については、更新する際に市民ニーズに合わせ、効果的な手法を常に検討していく必要があることから「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 賞味期限の偏りや食料の種類については、市民ニーズを吸い上げる方法を検討してください。更新時の旧食品についてはより多くの市民へ行き渡る方法での啓発配布を検討してください。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	防災備蓄物品の整備		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	2	2	2
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	担当	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	39	施策名	居住支援、防犯・防災対策の推進 ～えびなっ子を守る安全安心なまち～
		方向性	危機管理の強化
事務事業名	防災行政無線局等の維持管理		
担当部課	市長室 危機管理課		
目的	災害時における迅速な情報収集伝達や市民等の生命及び身体の安全を確保するための防災設備の適正な整備及び維持管理を行います。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	災害に強いまちづくりを目指し、かねてから防災設備を増強整備してきたことに比例し、維持管理経費も増加傾向となり、老朽化設備においては修理の頻度も増えてきていることから、費用対効果を最優先事項として、劣化設備の廃止も視野に入れながら最新設備の導入を検討し、防災設備の整備を行っていきます。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 大型防災備蓄倉庫や飲料水兼用貯水槽などの防災設備の整備については、長期に渡り避難所を開設運営することを想定し整備する必要があります。また、老朽化した設備の更新については、限られた予算の中で効果的な整備を検討していく必要があることから「見直し継続」とします。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 無線の維持管理という手段が目的化されてしまう傾向がありがちなので、如何に市民に情報を伝達するかという目的を明確に持ち、至急回覧板等アナログ的前時代的な方法も検証する等、これまでとは異なった視点からの検討が必要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-3＞居住支援、防犯・防災対策の推進～えびなっ子を守る安全安心なまち～	取組の方向性	危機管理の強化
事業	防災行政無線局等の維持管理		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	3
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	2	2	2

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



## 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	4	まちの魅力向上とシティセールスの推進～まちの魅力を創る、伝える、拡げる～
施策	4-1	まちの魅力向上

### 【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
転入者数	5,011人	平成26年	3万人 (H27-31合計)	5,398人 (H28)	住民基本台帳 人口移動報告

### 【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
田園風景の居心地の良さやまちとしてのにぎわいを両立し、まちとしての質の高さにより「選ばれるまち」となるよう「まちの魅力」を向上させていきます。					

### 【各評価】

実施計画事業	事業名		担当部課	内部	外部
	40	まちの美化の推進		見直し拡大	見直し拡大
41	都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進		見直し継続	見直し継続	見直し継続
42	美しい景観の形成		見直し継続	見直し継続	見直し継続
43	空き地・空き家の適正管理		現状継続	現状継続	見直し継続
44	放置自転車対策		現状継続	見直し継続	見直し継続

評価項目	評価基準				評価	
(1)施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。				内部	外部
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている			1	3
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある				
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある				
	4	その他				
(2)施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。				内部	外部
	1	順調である	2	やや遅延している	1	1
	3	著しく遅延している		4	その他	
内部評価コメント	「まちの魅力」の向上・「選ばれるまち」を目指すため、各施策が適正に行われています。特に空き家対策については、法定される「特定空き家」は存在せず、空き家が通常の売買で減少している状況であり、「選ばれるまち」となっていることが示されていると考えます。 しかし、駅前の放置自転車を例にとると、移動台数は減少しているものの相当数の放置台数があることから、移動だけでなく区域のきめ細かな見直しや手数料のあり方等、多方面の検討も必要であると考えます。					
外部評価コメント	まちの景観向上には、電柱の地中化は有効ですが、施策達成のための事業に取り上げられていません。また、まちの案内標識等に統一的なデザインや芸術性を加味するといった事業も、まちの魅力向上に繋がるものと考えます。					

事業別評価結果

No	40	施策名	まちの魅力向上
		方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事務事業名	まちの美化の推進		
担当部課	経済環境部 環境課		
目的	市と市民が美化推進を協働して行うことにより、清潔な市内環境の保持及び美化意識の高揚を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し拡大	まちの美化推進の向上を図るため、これまでの支援事業や啓発活動を継続的に実施していくとともに、禁煙条例の制定に向けた検討をしていく必要があるため、見直し拡大とします。
	内部評価	見直し拡大	担当部課評価を支持します。 啓発活動の結果、指導件数は毎年減少していることから、今後も継続して進めるとともに、禁煙条例の制定の検討を進められたい。
	外部評価	見直し継続	まちの美化は重要ですが、その手段の有効性については常に見直しの姿勢が必要です。例えば、ゴミについては、出たゴミへの対策だけではなく、そもそもゴミが出ない対策も同時に考え実施するなど、広い視野での事業展開が必要です。 まちの美化とは何を意味するか、横断的な事業展開やさらなる啓発活動を行うなどにより、喫煙にばかり目を向けることのない事業展開が求められます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<4-1>まちの魅力向上	取組の方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事業	まちの美化の推進		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	2
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	3	3	3
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	2
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	2
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	41	施策名	まちの魅力向上
		方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事務事業名	都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進		
担当部課	まちづくり部 都市計画課		
目的	都市計画法及び都市再生特別措置法の制度活用等により、計画的で秩序あるまちづくりを促進します。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	<p>道路交通マスタープランについては、改訂が終了したため、事業完了となりました。</p> <p>都市計画審議会及び社会資本整備総合交付金については、事業進捗による開催や計画変更となるため、引き続き実施していくこといたします。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>事業計画のとおり、都市マスタープランの改定が予定されているとともに、変更された国庫補助事業をさらに活用するよう、様々な視点から見直しを図られたい。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>都市政策は多くの市の事業に関わる重要施策です。審議会の開催なども重要な事務ですが、事業名にあるとおりまちづくりを推進する働きかけに期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<4-1>まちの魅力向上	取組の方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事業	都市計画制度等の活用によるまちづくりの推進		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	2	2	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	42	施策名	まちの魅力向上
		方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事務事業名	美しい景観の形成		
担当部課	まちづくり部 都市計画課		
目的	海老名の良好な景観資源を守り育て、美しい都市景観の形成を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	引き続き、良好な景観形成のため、開発・建築行為等に対する管理・指導・助言を行ってまいります。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 平成29年度の課題で挙げられているとおり、計画に対する諮問機関が「都市計画審議会」と「景観審議会」にわたっており、各審議会の役割分担について整理されたい。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 美しい景観の形成という事業名では、事業の対象とされる範囲が広く想定されてしまい、現実に沿っていないように感じます。真の対象や目的を明確にし、かつそれが分かりやすいような事業運営に期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<4-1>まちの魅力向上	取組の方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事業	<b>美しい景観の形成</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	1	1	1
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	2	2	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	43	施策名	まちの魅力向上
		方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事務事業名	空き地・空き家の適正管理		
担当部課	まちづくり部 住宅公園課		
目的	空き地、空き家による雑草の繁茂やゴミの散乱、健康への被害、火災の恐れなど付近住民の安全や生活環境への悪影響の排除を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	これまで進めてきた空き家の活用に向けた施策として、民間団体（海老名市宅建業者協力会）との協定により空き家見守りを開始しました。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 海老名市においては報道されるような深刻な「空き家問題」はなく、駅間のマンション開発等に代表される「まちの活性化」により、不動産市場も活発化しており、売買によって空き家が減少している。今後も状況を注視しながら進めてください。
	外部評価	見直し継続	近年空き家等に関する苦情が増えていますが、苦情対応が事業の中心となつては、事業の目標達成が難しくなります。 空き家のニーズに対するマッチング事業は民間でも参入できそうな分野ですので、行政の役割を明確にするとともに、東京電力や水道局とのタイアップにより空き家がすぐに分かるメカニズムを構築するなど、抜本的な空き家対策に期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<4-1>まちの魅力向上	取組の方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事業	<b>空き家・空き地の適正管理</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	3	3	3
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	3
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	44	施策名	まちの魅力向上
		方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事務事業名	放置自転車対策		
担当部課	まちづくり部 市街地整備課		
目的	公共の場所に自転車等が放置されることを防止することにより、良好な生活環境を保持し、併せて災害時における防災活動の円滑化を確保します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	駅周辺等の公共の場所における放置自転車等を防止することで、良好な生活環境を保持し、また災害時における円滑な防災活動を確保していく。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を「見直し継続」に修正します。 毎年、移動台数は減少しており、平成29年に社家駅前を放置禁止区域に指定したことで、市内全駅が指定されたこととなった。今後は区域内の状況変化への対応のほか、返還手数料の見直し等様々な視点でのより効果的な方策の検討が望まれる。
	外部評価	見直し継続	内部評価を支持します。 放置台数が減少しているとのことでしたが、劇的な効果を見込むためには、返還手数料を大幅に上げるなど抜本的な対策が必要です。また、かしわ台駅やさがみ野駅については、他の自治体との広域的な連携も視野に入れた取組みの検討が有効です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<4-1>まちの魅力向上	取組の方向性	住みたい住み続けたいまちづくりの推進
事業	<b>放置自転車対策</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)  1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある	1	1	1
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)  1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない	1	1	1
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)  1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある	1	1	1
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)  1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない	1	1	1
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)  1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない	1	1	1
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)  1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない	1	1	1
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)  1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)	2	2	2
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)  1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)  1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない	1	1	1
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)  1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い	1	1	2

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



## 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	1	若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現～
施策	1-1	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～

【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
合計特殊出生率	1.32	平成25年	1.46 (H31)	1.41 (平成28年)	神奈川県衛生 統計年報公表値

【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
子育て施策への市民満足度	44.80%	平成25年度	55% (H30-H31実施の市政アンケート)	47.4% (H29)	市政アンケート (「満足」及び「やや満足」の割合)
妊産婦・新生児訪問指導実数	2,221人	平成26年度	2,300人 (H31)	2,101人 (H29年度)	市資料
子育て支援センター利用者数	35,114件	平成26年度	45,000件 (H31)	33,223人 (H29年度)	市資料
保育所入所待機児童数	42人	平成26年度	0人 (H31)	27人 (H28)	神奈川県公表値 保育所入所待機児童数

【各評価】

	事業名	担当部課	評価		
			内部	外部	
実施計画事業	45	母子の保健充実	現状継続	現状継続	現状継続
	46	母子健康診査の推進	現状継続	見直し拡大	見直し拡大
	47	子育て支援事業	現状継続	現状継続	現状継続
	48	子どもが健やかに育つ環境づくり	現状継続	見直し継続	見直し継続
	49	子ども医療費の助成	現状継続	現状継続	現状継続
	50	子育て支援センターの運営	現状継続	現状継続	現状継続
	51	私立幼稚園児への給食の提供	現状継続	現状継続	現状継続
	52	幼稚園就園の支援	現状継続	現状継続	現状継続
	53	民間保育所施設整備費の助成	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	54	子育て支援施設型給付費の支給	現状継続	現状継続	現状継続
	55	民間保育所運営費の支援	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	56	ひとり親家庭等医療費の助成	現状継続	現状継続	現状継続
	57	ひとり親家庭等の支援	見直し拡大	見直し拡大	見直し拡大
	58	要保護家庭生活支援事業	現状継続	現状継続	現状継続

評価項目	評価基準				評価	
(1)施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。				内部	外部
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている			1	1
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある				
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある				
	4	その他				
(2)施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。				内部	外部
	1	順調である	2	やや遅延している	1	1
	3	著しく遅延している	4	その他		
内部評価コメント	基本目標の「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現するための施策が万遍なく配置されています。本年4月より子育て、教育部門を統合した「えびなこどもセンター」もスタートしました。今後は、教育部との連携を図り、相乗効果(シナジー)で事業効果の向上を期待します。					
外部評価コメント	事業の配置は、海老名市で結婚、出産、子育てをしたいと思う人を迎えられるものだと思います。今後は、えびなこどもセンターができたことにもない、切れ目なく見守りや支援が出来ることで、元気なえびなっ子が育ち、市の発展に繋がることを期待します。					

事業別評価結果

No	45	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	母子の保健充実
事務事業名	母子の保健充実		
担当部課	保健福祉部 こども育成課		
目的	妊産婦及び乳幼児の健康の保持・増進及び、知識の普及啓発を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	核家族化や地域のつながりの希薄さ等により、妊産婦や保護者が孤立化し、また多くのインターネット情報に右往左往し不安感を抱えやすくなっています。妊娠、出産、産後の育児相談、電話相談等の支援の強化を助産師を中心に地区担当保健師で実施しました。精神疾患がある母親等養育の支援が必要な方へ子ども家庭相談室と連携し育児支援を実施します。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 こどもを安心して産み、育てるためにも、気軽に相談できる体制は重要です。 健康相談、健康教育、新生児訪問指導、乳幼児訪問指導の参加人数も非常に多く、子育て世代に事業が定着していると判断されます。更に、児童虐待予防のため、検診未受講者の把握に努めるなど、地道な活動もありました。 今後も、相談者に寄り添った相談や健康指導を期待します。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 内部評価にあるように、市の施策が子育て世代に定着し、こどもを安心して産み育てる環境づくりに貢献できていると思います。 今後は、これまでの事業を継続するにとどまらず、訪問指導等外国人の支援対策など、キメ細やかな支援の検討を期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	母子保健の推進
事業	<b>母子の保健充実</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	1	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	2	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	46	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	母子の健康推進
事務事業名	母子健康診査の推進		
担当部課	保健福祉部 こども育成課		
目的	育児不安の解消を図ることにより母子の健全な発達を支援します。また、心身の障がいの早期発見及び虐待の発見に努めます。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	乳幼児健診の未受診者への受診勧奨などを実施し、健康診査の本来の目的である母子の健全な発達の支援、心身の障害の早期発見に努めます。育児支援が必要な家庭には早期に対応できるよう、医師会や歯科医師会、保育園等関係機関と連携を図ります。疾病を持つ妊婦や高齢出産が増加しているため、産婦人科や小児科での入院中からの面接や医療機関との連携を強化します。乳幼児健康診査の個別化について、歯科医師会等と調整を実施します。
	内部評価	見直し拡大	担当部課評価を修正します。 こどもを安心して産み、育てるためにも、母子健康診査による「母子の健全な発達支援」、「心身の障がいの早期発見」は、重要です。 今後は、早期対応が図られるよう、得られた検診結果を医師、歯科医師等につなげるとともに、教育委員会と連携し現行の健康管理システムを学校保健においても活用し、0歳児から切れ目のない健康管理体制の確立を期待し、「見直し拡大」と判断します。
	外部評価	見直し拡大	内部評価を支持します。 事業は子育て支援策として十分に展開されていると思われませんが、平成30年度に開設されたえびなこどもセンターを活用し、保健福祉部と教育部が連携を図ることができれば、さらなる母子の健康推進に繋がることが期待できます。 未就学児と就学児時に対する健康診査は目的が異なるとのことですが、これまで以上に密な連携を図り、相乗効果を創出してほしいです。

# 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	母子保健の推進
事業	<b>母子検診診査の推進</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	47	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	子育て支援事業		
担当部課	保健福祉部 こども育成課		
目的	将来を担う「えびなっ子」の誕生を祝福するとともに子育て支援の充実を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	誕生のお祝いとして、また4か月健診を受けていただくこと、さらに保護者の経済的負担の軽減を図り、災害対策としても有効であるため、継続して実施していきたいと考えています。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 災害時用備品の有効活用と育児に係る保護者の経済的な支援策として有効と考えます。今後も、海老名市の子育て支援事業のひとつとして広く市内外にPRすることを期待します。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 出生のお祝いの気持ちをもらうことは嬉しいものであり、紙おむつの支給は子育てにも役立ちます。また、大型備蓄倉庫に保管されているものを利用するため、災害時の備品確認にも繋がるため、今後も工夫しながら継続して行うことが良いと考えます。 もっとも、事業そのものは昔から実施されており、市民が広く知っている事業だと思われます。そのため、市民への事業のPRにおいて工夫を施すだけでなく、紙おむつの受け取り方の多様化(例えば、希望者だけでなく全員に郵送にする)など、様々な工夫を実施し、市民にさらに喜ばれる制度にしていきたいです。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-1>結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	子育て支援事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	3	3	3
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	3	3	3
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	48	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	子どもが健やかに育つ環境づくり		
担当部課	保健福祉部 こども育成課		
目的	HUGHUGえびな宣言に基づき、子育て支援策の充実を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>子ども子育て会議を開催し、平成30年度は、次期子ども子育て計画の検討を行います。</p> <p>また、子育て応援サイトを継続して運営し、海老名市の子育て施策を発信していきます。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を修正します。</p> <p>平成29年度は、計3回の会議が行われましたが、議題が保育所が中心で、議論に偏りがあった印象です。</p> <p>今後は、えびな子どもセンターの開所を契機に、教育委員会と連携し、学童保育等こどもを取りまく広範な議論に期待し、「見直し継続」と判断します。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>内部評価を支持します。</p> <p>事業が分離され生まれ変わったばかりであり、今後は課題を整理しながら事業を継続していく必要があると思います。そのなかで、事業の目的や対象を明確にしすることで、課題や良い施策が見えてくる場合もあります。事業の中心に子ども子育て会議があることを明確に打ち出し、事業を市民に分かりやすくすることで、子育て支援に繋がるものであると思います。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	子どもが健やかに育つ環境づくり		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	2	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	3	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	49	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	子ども医療費の助成		
担当部課	保健福祉部 国保医療課		
目的	子どもの健全な育成支援を行い、健康の増進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>通院に対する県補助対象は、小学校就学前までの児童ですが、子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、子どもたちが安心して必要な医療を受けられるよう、平成30年度においても引き続き市の単独事業を用いて、中学校3年生までの医療費助成を実施したいと考えております。</p> <p>事業の継続にあたっては、検証をしっかりと行い、事業全般についての検討も進めていきます。また、県への補助の拡大を働きかけていきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>本事業は、「海老名市で結婚、出産、子育てしたい」を実現するべく、本市が他市に先駆けて実施した保護者負担軽減策の代表的な事業です。</p> <p>本事業は、多くの子育て世代に受け入れられるとともに好評です。そのため、他市が追随している状況にあります。</p> <p>海老名市の魅力発信と出生率の向上に向け、更なるPRを望みます。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>子育て世帯の経済的負担を軽減する本事業は、市民の住みやすさ、定住に繋がる良い子育て支援策だと思います。これまで通り事業を継続しつつ、市の経済的な負担軽減のため、県への補助対象拡大を働き掛けを期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	<b>子ども医療費の助成</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	<p>対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)</p> <p>1. 正しく設定されている    2. 一部設定に課題がある    3. 改めて設定し直す必要がある</p>	1	1	1
2	<p>今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)</p> <p>1. 明確に示されている    2. 一部不明瞭である    3. 示されているが不明瞭である    4. 示されていない</p>	1	1	1
3	<p>進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)</p> <p>1. 順調である    2. 一部遅延がある    3. 遅延がある</p>	1	1	1
4	<p>市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)</p> <p>1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである    2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う    4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない</p>	1	1	1
5	<p>費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)</p> <p>1. 十分に実績が得られている    2. 一部実績が得られていない    3. 実績が得られていない</p>	1	1	1
6	<p>課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)</p> <p>1. 正しく把握できている    2. 一部把握できている    3. 正しく把握できていない    4. 課題・問題点はない</p>	1	1	1
7	<p>他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)</p> <p>1. 現状の事業枠が適正である    2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)</p>	1	1	1
8	<p>市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)</p> <p>1. 十分に周知されている    2. 一部周知されていない    3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない</p>	1	1	1

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	<p>市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)</p> <p>1. 必要性が高い    2. 必要性が低い    3. どちらとも言えない</p>	1	1	1
10	<p>施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)</p> <p>1. 優先的に実施すべきである    2. 優先的に実施することが望ましい    3. 優先的に実施する必要性は低い</p>	1	1	1

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	50	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	子育て支援センターの運営		
担当部課	保健福祉部 子育て相談課		
目的	子ども達が自由に遊ぶことができる場と親同士が気軽に交流ができる場を提供するとともに、関係機関と協力して子育てを支援します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>今後もこども家庭相談室と連携し、専門的な相談に対応していきます。親子の居場所づくり、安心して相談や親同士の交流ができる地域の子育て支援の拠点として、広場や講座内容の充実を図ります。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。 若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえることは、海老名市かがやき持続総合戦略の基本目標1で掲げている具体的施策であり、これまでの様々な取り組みは有効と考えます。特に、地域版子育て支援センターの設置は高い効果が予想される施策であることから、現在の計画どおりに拡大していただく意味で、「現状継続」とします。 今後、母子健康診査などの他事業との連携により、さらなる効果を期待します。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 育児相談や親子の居場所・交流づくり等の拠点として、子育て支援に貢献している事業です。今後も市民ニーズを的確に汲み取り、子どもにも保護者にも寄り添った事業の展開が求められます。</p>

# 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<1-1>結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	子育て支援センターの運営		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	51	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	私立幼稚園児への給食の提供		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	幼稚園において、小学校給食に慣れるように食缶での配膳給食を提供する。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	食缶給食を実施することによる園児への食育の効果が期待できません。
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>私立幼稚園への給食提供は、幼小中のつながりを円滑にし、小1プロブレムの解消など、子どもたちの成長に大きな効果が期待できるものであると考えます。</p> <p>この5年間の事業効果を検証し、さらによりよい形を検討していくことが求められます。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>子どもが給食を楽しみにし、小学校進学を楽しみにしているという話もあり、子どものための事業として効果的な役割を果たしているものと思われま。</p> <p>一方で、食育の観点は薄いと思われるため、あくまで子どものためという視点を重視して事業を行ってほしいです。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	私立幼稚園児への給食の提供		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	3	3	3
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	2	3	3
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	52	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	子育て支援の充実
事務事業名	幼稚園就園の支援		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	幼稚園児における保育料等の一部を補助し、保護者の経済的負担の軽減を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>私立幼稚園へ就園している園児を持つ保護者に対して、入園料・保育料の助成(国庫補助・市単独補助)を行い、保護者の経済的負担の軽減が図られ、一定の成果がありました。今後も国の制度内容の見直しに伴う補助額の改定等を適切に行い、事業の継続を図りたいと考えます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。                      幼児期の教育の重要性が注目を集めている状況の中で、保育料等の一部を補助し保護者の負担軽減を図ることは、海老名の子どもたちの育成にとって大変有効な事業であり、「現状継続」とします。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。                      本件補助により私立幼稚園への就園の保護者負担が軽減されるため、待機児童の解消だけでなく、子どもの教育機会の保護にも資する事業だと思います。幼児教育については、市民にもっとも身近な自治体である市の責務だと思われしますので、市の経済的な負担をおさえながらも国や県の補助に任せきりではない積極的な事業の展開に期待します。</p>

# 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	子育て支援の充実
事業	<b>幼稚園就園の支援</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	53	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	保育環境の充実
事務事業名	民間保育所施設整備費の助成		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	民間認可保育所等における施設整備の促進を図り、待機児童の解消を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	<p>現状にあっては、待機児童の解消に向け必要な保育所整備を図るべきものと考えますが、申し込みや入所状況を踏まえると、おおむね保育所が充足しているものと考えられる地区もあります。次年度以降についても、地区別のニーズを見極め、増設を進めるべき地区、抑制すべき地区を検討し、戦略的に対応します。</p> <p>なお、既存施設の運営支援については、県費補助による賃借料補助から、国庫・県費負担による賃借料加算に全面的に移行することを踏まえ、本事業から「子育て支援施設型給付費の支給」に移行させるものとしします。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>子育て世代が海老名市に住み続けられるための子育て環境の整備は市の柱となる政策であり、保育所の施設整備、待機児童解消にむけた取り組みは常に戦略的に対応していく必要があることから、「見直し継続」といたします。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>おおむね保育所が充足しているとする担当部課評価の一方で、待機児童の問題も未だに解消しておらず、保育所の全体的な整備が必要だと思われます。女性の社会進出の拡大や、海老名駅西口開発による子育て世代の市内転入等により、今後も待機児童の問題は継続、あるいは拡大することも想定されます。</p> <p>市の経済的な負担が少ない方が良いですが、市民に近い市が事業の主体となることが求められますので、より積極的な関与を期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	保育環境の充実
事業	<b>民間保育所施設整備費の助成</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	54	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	保育環境の充実
事務事業名	子育て支援施設型給付費の支給		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	市内の児童が入所している認可保育所及び施設型給付に移行した幼稚園における保育水準の維持・向上を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	引き続き、認可保育所及び新制度へ移行した幼稚園に対し、教育・保育を提供することに必要な経費を給付する。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 子育て支援施設型給付費の支給は、認可保育所及び施設型給付に移行した幼稚園の運営のために必須なものであり、「現状継続」といたします。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 本給付費は、認可保育所や施設型給付に移行した幼稚園の運営の基盤となるものであり、欠かせない運営の財源となっています。各園のスムーズな運営や良好な保育環境、さらには保育士の給与を支える費用となっているため、引き続き事業の継続が必要です。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	保育環境の充実
事業	子育て支援施設型給付費の支給		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要はあるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	55	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	保育環境の充実
事務事業名	民間保育所運営費の支援		
担当部課	保健福祉部 保育・幼稚園課		
目的	民間認可保育所及び認可外保育施設における保育事業の運営と経営基盤の安定を図り、もって児童福祉環境の向上を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	<p>国庫・県費補助については、制度改正に合わせ、柔軟な対応を継続して行っています。また、市単独補助金については、事業が細分化されているため、事業者が利用しやすいものとなるよう、補助項目を統合し、来年度は実施の予定です。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。 海老名市においてはまちづくりの進展等から人口は増加傾向にあることで、保育の需要は引き続き高い状況にあり、転入者も多く保育ニーズも多様化しています。公立保育園だけの対応には限界があり、民間認可保育所等の事業運営等のためには当該補助制度が重要な役割を果たしています。国県制度はもとより、保育士不足に対応する市単独補助も有効であることから、制度等の改善を図りながら事業の継続が必要と判断します。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。 補助が事業が多様であり、事業者のニーズに沿うことができるものといえますが、保育士の雇用費に関する補助など、市の単独補助があつてはじめて支援に繋がっている部分もあります。市の単独補助であれば、財政的な負担は増すものの、市民にとって有効な補助は充実を図ってほしいです。 利用しやすいものへの改善を進め、有効な支援方法を模索しながらの事業に期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	保育環境の充実
事業	民間保育所運営費の支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	56	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	ひとり親家庭等の支援
事務事業名	ひとり親家庭等医療費の助成		
担当部課	保健福祉部 国保医療課		
目的	ひとり親家庭における、健康の保持と福祉の増進を目指し、医療費負担軽減による生活の安定を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	県内市町村が同じ基準によりひとり親家庭等に対し保険診療による医療費の自己負担を助成しており、児童のみならず親も含めて利用できることから、ひとり親家庭等の経済的支援策として、有効に機能しております。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 医療費助成については、ひとり親家庭等における生活の安定に寄与する事業であり、県内市町村が同一基準で実施されていることから、現状における制度改善の余地は見られず、担当部課評価の通り現状継続とします。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 県内の市町村が同一基準で助成を実施していること、またこの助成がひとり親家庭等の経済的支援に繋がっていることから、今後も継続した事業運営が望まれます。しかし、現状課題や問題がないとしても、今後の状況の変化を見守り、より良い事業が実施できないか、という視点は持って事業に取り組んで欲しいです。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	ひとり親家庭等の支援
事業	ひとり親家庭等医療費の助成		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	4	4	4
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	57	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	ひとり親家庭等の支援
事務事業名	ひとり親家庭等の支援		
担当部課	保健福祉部 こども育成課		
目的	ひとり親世帯の生活上の諸問題を解決するための助言指導を行い、自立の促進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し拡大	<p>これまでの住宅手当補助制度の支給額、支給回数、対象者の見直しを行い、平成30年度から「ひとり親家庭等家賃助成事業」として事業を実施します。</p> <p>同じく平成30年度から、ひとり親家庭の母又は父、及びその子どもの学び直しを支援するため「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を開始します。</p>
	内部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>平成29年度において母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業について制度改正を行い、平成30年度においても、担当部課評価のとおり支援制度の拡大が計画されています。各事業は、ひとり親家庭の自立促進には必要な事業であり、担当部課評価を支持します。</p>
	外部評価	見直し拡大	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>本補助は、住宅費用の補助だけでなく、教育訓練への補助も含まれており、将来のひとり親家庭の自立促進に資する補助が含まれています。補助額が支援として充分といえるか、ひとり親家庭の状況を見ながら、今後も幅広く利用される補助制度としていただきたいです。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	ひとり親家庭等の支援
事業	ひとり親家庭等の支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	2	2	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	3	3	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	58	施策名	結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～
		方向性	ひとり親家庭等の支援
事務事業名	要保護家庭生活支援事業		
担当部課	保健福祉部 子育て相談課		
目的	支援が必要な家庭に対し、関係機関と連携し必要な対応を図ることで子どもが健やかに育つ家庭づくりを支援します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	平成29年度より子育て相談課となり子ども相談支援拠点の役割を担っている。新しい課となり1年間の中で体制が固まってきた。平成30年度においても継続して体制の充実を図っていきます。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 要保護児童家庭、特定妊婦家庭及び要支援家庭等に関しては、子供が健やかに育つ家庭づくりに対する支援が必要です。課題解決に向けた更なる支援の充実には、関係機関等との調整・連携が重要であり、引続き課員等のスキルアップによる体制充実を図りながら取り組んでいきたいと思っております。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 子どもが虐待の被害に遭うことなく、子どもが健やかに育つ環境づくりのため、本事業は必須だと考えられます。関係機関と連携を密にし、虐待防止や保護の必要な家庭の支援に漏れ、支援不足がないよう、実施の徹底に期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	＜1-1＞結婚・出産・子育て支援～元気なえびなっ子を育む～	取組の方向性	ひとり親家庭等の支援
事業	要保護家庭生活支援事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統廃合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



## 施策評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

基本目標	2	まちなかがやきを持続する拠点性を高める～海老名駅を中心に、まちの魅力と求心力を向上させる～
施策	2-3	高齢者と歩む地域コミュニティの形成

### 【基本目標KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
海老名駅各駅乗降者数	270,411人/日 (小田急, JR, 相鉄)	平成26年	277,500人/日 (H31)	295,055人 (H28)	各鉄道会社公表値
市内路線バス利用者数	35,256人/日 (神奈中, 相鉄バス)	平成26年	36,600人/日 (H31)	32,750人/日 (神奈中, 相鉄バス) (H28)	各バス事業者資料

### 【施策KPI】

指標	基準値	基準値設定年	目標値	進捗	測定方法
高齢者施策への市民満足度	—	—	55% (H30-H31実施の市政アンケート)	17.8% (H29)	市政アンケート 〔「満足」及び「やや満足」の割合〕
シルバー人材センター登録会員数	884人	平成26年度	930人 (H31)	807人 (H29)	市資料
地域包括支援センター利用者	20,034人	平成26年度	27,000人 (H31)	28,489人 (H30.2末)	市資料
健康状態見える化コーナー利用者数	—	平成26年度	2,000人 (H31)	3,653人 (H29)	市資料

### 【各評価】

	事業名	担当部課	評価	
			内部	外部
実施計画事業	59 高齢者の生きがいづくり	現状継続	見直し継続	見直し縮小
	60 高齢者の就労支援	現状継続	現状継続	見直し継続
	61 地域包括支援センターの運営支援	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	62 ひとり暮らし高齢者等の在宅支援	現状継続	現状継続	現状継続
	63 長寿祝い事業	現状継続	現状継続	現状継続
	64 医療・介護連携推進事業	現状継続	現状継続	見直し継続
	65 地域の実情に応じた介護支援事業	現状継続	見直し継続	現状継続
	66 健康の保持増進	現状継続	現状継続	現状継続
	67 生活習慣病検診	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	68 特定健康診査の補完診査	見直し継続	見直し継続	見直し継続
	69 介護・予防・生活支援サービス事業	現状継続	現状継続	現状継続
70 一般介護予防事業	現状継続	現状継続	現状継続	

評価項目	評価基準				評価	
					内部	外部
(1) 施策の推進に係る事業の適正配置	施策を構成する事業の数や内容が適正で、当該施策の達成に効果的な配置となっているかについて評価する。				1	1
	1	当該施策を達成するのに十分な事業が配置されている				
	2	当該施策の達成において、削減すべき(不要な)事業がある				
	3	当該施策の達成に向け、さらに追加すべき事業がある				
	4	その他				
(2) 施策の進捗・達成評価	現時点での達成状況から見て、当該施策が順調に推進されているかについて評価する。				1	2
	1	順調である	2	やや遅延している		
	3	著しく遅延している	4	その他		
内部評価コメント	高齢化の進展に伴い、生活支援体制の整備、介護予防事業の充実、医療と介護の連携、認知症高齢者支援の促進、介護保険制度の適正な運営事業等が配置されています。さらに、高齢者の利用者数の増加や利用効果の向上につなげるため、制度の理解や事業内容の周知等に積極的に取り組むことが期待されます。					
外部評価コメント	多くの事業が展開されていますが、事業の細部については真に高齢者に必要なものか、検討が必要なものもあります。また、事業によっては目標達成率が低いことも懸念されるため、事業の内容や対象を見直ししながら、高齢者と歩む地域コミュニティの形成を実現してください。					

事業別評価結果

No	59	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	高齢者の生きがいづくり		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	高齢者の生きがいと健康づくりの推進及び社会参加活動の促進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	高齢者の生きがい及び健康づくりの観点から有効な事業であるため、現状継続として実施します。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を修正します。 高齢者人口が増加局面にある中、健康で元気な高齢者であり続けるためには一定の効果がある事業です。 他方、生きがい教室やニュースポーツに関しては、他部の事業(例:生涯学習、社会教育、健康関連等)と類似している面もあり、これらにも多くの高齢者が参加しているので、市全体としての調整を図り、効率的な事業運営を図ることが必要と思われる。
	外部評価	見直し縮小	アクティブシニアという言葉があるように、高齢者のみをターゲットに絞った事業は昨今ニーズが縮小しているともいえます。 必要性を精査し、他事業との連携や対象者を広げるなど、幅広い支援に高齢者支援を取り込むことが必要だと思われる。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	高齢者の生きがいづくり		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	3
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	3	2
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	3
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	60	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	高齢者の就労支援		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	働く意欲のある高齢者の知識、経験、能力を活かした、自らの生きがいづくりの支援と社会参加機会の拡充を促進します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	現状の内容で安定運営に向けた支援を行います。
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織であり、安定的な運営に向け支援は必要と考えます。</p> <p>しかしながら、補助対象事業に係る詳細が不透明であることから、決算状況等を見極め、補助金額の適正化に努められたい。</p> <p>また、シルバー人材センターへの支援のみならず、「高齢者の就労支援」の観点から広く事業の研究を期待します。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>シルバー人材センターの安定運営が高齢者の就労支援に繋がるという視点は否定できませんが、シルバー人材センターに利益が生じていることから、登録し働いている人に適正な対価が支払われているとするならば、補助金が本当に必要か、見直す必要があります。</p> <p>なお、見直しにあたっては、シルバー人材センターの安定運営のため、センターへの市事業の委託事業拡大も検討してください。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	高齢者の就労支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	2	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	3	3	3
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	61	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	地域包括支援センターの運営支援		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活が継続できるよう、地域包括支援センターの運営事業等に支援を行います。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	平成30年4月から基幹型包括設営に伴い、基幹型包括支援センター等への委託内容の見直しなどの検討が必要となるため、見直し継続とする。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、包括的および継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を果たすものであります。 平成30年4月から基幹型地域包括支援センターが開設され、各地域包括支援センターとの連携を図り、安定的な運営に向けた取り組みに期待します。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 社会の高齢化に歯止めがかからない現代において、高齢者がより安心して過ごすことができる地域包括ケアシステムの構築は重要な課題です。各事業の市民周知を強化しつつ、さらなる高齢者支援が実現することを期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	地域包括支援センターの運営支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	62	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	ひとり暮らし高齢者等の在宅支援		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	ひとり暮らし高齢者に対して、孤立感解消、緊急事態の対応など日常生活支援を行うことにより、日常における安全で安心した在宅生活を支援し、高齢者の孤立防止を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>緊急通報事業はこれからも人感センサー付きのサービスを中心に必要者に機器の貸し出しを行い、見守りサービスを継続していきます。</p> <p>配食サービスは、見守り効果が高いことから、このサービスの目的からも引き続き必要とする方にサービス提供ができるよう継続して取り組みます。</p> <p>認知症高齢者を家族等の日常生活の安心の一助とするため高齢者あんしん保障を追加しました。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>緊急通報システム貸与及び配食サービスは、ひとり暮らし高齢者等の安否確認を行う重要な事業と考えます。また、安全点検や地震対策援助事業(家具転倒防止安定板設置)は、高齢者の安全を守る事業であることから現状継続とします。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>事業内容の性質上民間が主体となる事業が多く見られます。その中で、行政が負うべき部分や行政にしかできない事業の色分けを明確にし、継続した高齢者支援の実施に期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	ひとり暮らし高齢者等の在宅支援		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	1	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	63	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	長寿祝い事業		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	高齢者の長寿を祝うとともに、地域コミュニティの醸成を図り、高齢者福祉への理解と関心を高めます。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>高齢者の健康と長寿を祝う事業であり、引き続き継続した事業の取組を行います。</p> <p>また、地域ふれあい事業では、平成28年度に見直しを行ったばかりであるため現状継続とし、見直し結果を確認していきます。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>敬老ふれあい事業は、高齢者が広く地域の中での触れ合いを通じ、楽しみを見出すと共に高齢者福祉の理解と関心が高まることが期待できます。しかし、参加者が減っていることから、社会福祉協議会とも調整を行い、自治会の負担が増えない支援をお願いします。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>高齢者のライフスタイルが多様化している現代においては、現行のふれあい事業についても、対象の選定や内容の精査が適宜必要です。自治会及び高齢者の意向や委託事業の状況を見ながら、高齢者をお祝いする重要な事業として進めてほしいです。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	長寿祝い事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	3	3
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	2	2	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	64	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	医療・介護連携推進事業		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	在宅医療を提供する関係機関の連携体制を構築するため、医療や介護従事者による多職種連携を図るとともに、市民の意識啓発を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>多職種研修会、市民を対象とした医師会との共催の講演会は引き続き実施します。医療連携体制の充実を図ってまいります。</p> <p>在宅医療介護連携に関する相談窓口(えびな在宅医療相談室)は、関係機関との連携を図り継続継続します。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の構築が重要であることから、協議会による研修会・セミナーや講演会などの実施が必要です。</p> <p>また、情報共有システムの運用や在宅医療介護連携に関する相談窓口(えびな在宅医療相談室)により、関係機関との連携を図ることも必要である。</p> <p>なお、対象・目的については、再度確認願います。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>高齢者の支援において、医療と介護は密接不可分です。それらを結ぶ行政の役割を認識し、事業のさらなる充実に期待します。</p> <p>また、えびな在宅医療相談室など、事業の住民周知も強化し、市の施策が真に市民に沿うものとなることを期待します。</p> <p>内部評価にもあるとおり、対象・目的については確認が必要であると思われまます。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	<b>医療・介護連携推進事業</b>		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	2	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	2	2	2
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	3	3	3
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	2
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	65	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	高齢者福祉の充実
事務事業名	地域の実情に応じた介護支援事業		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を継続していけるよう、在宅における介護環境の支援を図り、また認知症高齢者への理解と支援策の充実を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	認知症サポーター養成講座や介護者教室の開催、成年後見人報酬助成など継続した事業の実施を行います。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を修正します。 高齢者が住み慣れた地域で生活を維持していけるよう、家族介護者の介護知識や技術の向上や、認知症を正しく理解し地域で見守ることができる方を養成するためのサポーター養成講座などは今後も必要と考えます。 今後は、サポーターの資質向上を図るとともに、ボランティアとして活躍できる場の提供や仕組みづくりを検討していく必要があるため、「見直し継続」と判断します。
	外部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 高齢者の中には、住み慣れた地域で生活を維持したいと思う方が少なくないと思われます。そのような方を支える仕組みづくりは不可欠であり、身近な介護力を向上させることは重要な事業です。 地域での介護を支える人材の育成が叶うよう、引き続き相談事業や講座が十分実施されるよう期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	高齢者福祉の充実
事業	地域の実情に応じた介護支援事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	66	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	健康寿命の延伸
事務事業名	健康の保持増進		
担当部課	保健福祉部 健康推進課		
目的	生活習慣病の情報を提供し、生活習慣の改善や心の健康づくりの支援を行うことにより、市民の健康増進を図ります。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>地域や各種団体からの依頼のあった教育・相談に対応し、身近なところで健康づくりができるように事業を行います。健康づくりの動機づけ支援と健康的な生活習慣の継続を促すために、健康マイレージ事業を継続して実施します。家庭訪問は、疾病予防事業への参加を促すため実施し、教室参加を促進することに効果があったため、今後も継続して実施する予定です。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。          今後、高齢者人口の大幅な増加が見込まれる中で、できる限り住み慣れた地域で元気に暮らし続けていくために、市民一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、生活習慣の改善と生活習慣病の重症化予防に自ら主体的に取り組むことが重要である。市が市民の健康づくりを支援し、地域全体で健康づくりにつながるしくみやこころの健康づくり対策を整える必要が求められている。健康づくりの知識や実践方法を習得し、自らの健康を守り、育てる力をつけるため、さらに地域に根ざした健康づくり事業の推進に努められたい。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。          高齢化社会においては、健康な状態で長生きすることが望まれます。そのため、自身の健康状態を認識し、生活習慣を改善したり病気を軽度の段階で防ぐことが重要です。自分の健康状態に興味を持つきっかけづくりとして、本事業の継続を期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	健康寿命の延伸
事業	健康の保持増進		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	1	1	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	67	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	健康寿命の延伸
事務事業名	生活習慣病検診		
担当部課	保健福祉部 健康推進課		
目的	生活習慣病の早期発見に努め、健康の維持を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	がん検診受診率向上には、勧奨等が有効ではあるが、国の助成等の対象が減ったことにより、受診率の伸び悩みがありました。事業を継続することにより、がんの早期発見及び早期治療につながることから、事業の周知について一層の工夫を行い、受診率向上及び受診行動の定着化を図ります。
	内部評価	見直し継続	担当部課評価を支持します。 平成29年度は、広報特集などにより受診率の向上に取り組んだが前年度を大きく下回る結果となった。 「国の助成等の対象が減ったことによる受診率の伸び悩み」との担当部課評価があるが、主体的な健康づくりに向けては、受診率等の向上が課題である。受診行動につなげるための効果的な周知方法や勧奨方法、受診機会の拡大のための取り組みについて検討していく必要がある。
	外部評価	見直し継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 がん対策には検診の受診による早期発見が重要であるため、周知方法や検診の受けやすさ(検診場所の設定等)の工夫を図るなどにより、さらなる受診率の向上に向けて取り組んでほしいです。 なお、本事業が各種がんに特化したものであれば、がんの特性に応じて本事業の目的を一度整理する必要があると考えます。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	健康寿命の延伸
事業	生活習慣病検診		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	2	1	2
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	3	2	3
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	2	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	2	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	68	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	健康寿命の延伸
事務事業名	特定健康診査の補完診査		
担当部課	保健福祉部 健康推進課		
目的	メタボリックシンドロームに着目した新たな健康診査を行い、市民の生活習慣病の予防を図ります。		
総合評価	担当部課評価	見直し継続	<p>事業を継続することで、健康診査受診者が疾病の早期発見につながります。</p> <p>また、国保制度改革が行われ、より一層の受診率の向上を目指し、また、かながわ保健指導モデルなどの活用により市民の生活習慣病の予防を図るなど、保険者（保険年金課）と連携しながら医療費の抑制につなぐ工夫を行います。</p>
	内部評価	見直し継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>この事業は、生活習慣病の発症や重症化を予防するために実施している特定健康診査に、心電図と胸部X線、血清クレアチニン検査の項目を加えたものであり、受診結果から、その要因となっている生活習慣を改善し、対象者が自ら健康状態を自覚して生活習慣の改善に係る自主的な取り組みにつなげることが目的である。このことから、受診率の向上による市民の健康保持のため、受診行動につなげるための効果的な周知方法や勧奨方法、受診機会の拡大のための取り組みについて検討していく必要がある。</p>
	外部評価	見直し継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>近年ではメタボリックシンドロームの罹患者も増えている傾向であり、いち早く自身の健康状態を認識し、改善に取り組むことが必要です。改善のきっかけとしては、検診の受診による現状の把握であるため、本事業がさらに有効活用されることを期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	健康寿命の延伸
事業	特定健康診査の補完診査		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	1
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	2	2	2
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	1	1
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	2	2
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	1	2	1
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	69	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	健康寿命の延伸
事務事業名	介護・予防・生活支援サービス事業		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	要介護状態となることを予防します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	<p>今後も事業終了後も継続して自身の力で介護予防に取り組むための支援を行います。</p> <p>また、事業対象者の把握については、地域包括支援センターとの調整に工夫を図りながら実施します。</p>
	内部評価	現状継続	<p>担当部課評価を支持します。</p> <p>高齢化の進展に伴い、要介護者数が年々増加を続けている。要介護状態になる恐れが強い高齢者を対象とした本事業では、要介護状態となることの予防を目的としている。</p> <p>平成29年度は市内3か所で運動器具を使った運動機能向上を目的としたトランスフィットネス事業等を実施した。</p> <p>様々な目的別の教室の開催については、参加希望者個人に適した教室への参加となるよう、内容の説明や対象者となる市民の説明など周知の方法について検討されたい。</p>
	外部評価	現状継続	<p>担当部課評価、及び内部評価を支持します。</p> <p>事業の手段から見ると、実際の介護事業が通所型の運動に偏っているように感じます。しかし、ウォーキング教室などに通い、集団で運動することは健康維持に非常に重要です。</p> <p>必要に応じて他部署との調整を密に行い、市内の施設を有効活用し優先的に本事業が実施されることを期待します。</p>

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	健康寿命の延伸
事業	介護・予防・生活支援サービス事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。

事業別評価結果

No	70	施策名	高齢者と歩む地域コミュニティの形成
		方向性	健康寿命の延伸
事務事業名	一般介護予防事業		
担当部課	保健福祉部 地域包括ケア推進課		
目的	介護予防に資する基本的な知識の普及啓発を図るとともに、地域ボランティアや活動組織の育成を推進します。		
総合評価	担当部課評価	現状継続	対象者がすべての65歳以上に拡大したため、対象者の状況に応じた情報提供を地域包括支援センターと調整を図りながら実施します。事業終了後の支援として、継続して自身の力で介護予防に取り組むことができるよう動機付けを行います。
	内部評価	現状継続	担当部課評価を支持します。 健康の維持や増進のため、65歳以上のすべての市民を対象とした教室をを行っている認知症予防や仲間づくり、転倒予防、ロコモティブシンドローム予防のための筋力や柔軟性、バランス維持の向上のための体操教室など、目的に応じた予防事業を行っている。特に、地域サロンへの出前教室は開催回数、参加人数ともに大幅に増えている。さらに、平成29年度から事業統合した介護ボランティアポイント事業は、社会貢献活動を行うことによる生きがいづくりにもなっている。事業の充実にあわせて、教室事業内容の説明や参加者募集の周知方法の研究など、事業目的の達成のため、参加者の拡大に努められたい。
	外部評価	現状継続	担当部課評価、及び内部評価を支持します。 高齢化が進むなか、健康維持のための予防対策も多様化しているように思います。そのなかで、本事業は高齢者の目的に応じた予防事業が展開できています。 周知方法や情報発信を工夫することにより高齢者の参加が拡大することを期待します。

## 事業評価シート

海老名市かがやき持続総合戦略

施策	<2-3>高齢者と歩む地域コミュニティの形成	取組の方向性	健康寿命の延伸
事業	一般介護予防事業		

【事業評価1】 施策や同一施策内の他の事業との関連性にとらわれず、当該事業を絶対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
1	対象・目的・手段の設定について (対象・目的・手段が明確であり、正しく設定されているか評価する)	1	1	1
	1. 正しく設定されている 2. 一部設定に課題がある 3. 改めて設定し直す必要がある			
2	今後の展望・事業計画について (今後の方向性が定まっているか、事業計画が明確に示されているか評価する)	2	2	2
	1. 明確に示されている 2. 一部不明瞭である 3. 示されているが不明瞭である 4. 示されていない			
3	進捗状況・達成度について (現時点での達成状況から事業が順調に推進されているか評価する)	1	1	1
	1. 順調である 2. 一部遅延がある 3. 遅延がある			
4	市関与の妥当性について (事業を推進していく上で、市が関与する程度について評価する)	1	1	1
	1. 市が実施主体となって積極的に関与すべきである 2. 国や県が実施主体となり、市は補完的役割を担う 3. 民間等が実施主体となり、市は補完的役割を担う 4. 国や県が実施主体となり、市は関与すべきでない 5. 民間等が実施主体となり、市は関与すべきでない			
5	費用対効果について (予算や人員等に見合った実績が得られているかについて評価する)	1	1	1
	1. 十分に実績が得られている 2. 一部実績が得られていない 3. 実績が得られていない			
6	課題・問題点について (事業を推進する上での課題・問題点を正しく把握できているか評価する)	2	2	2
	1. 正しく把握できている 2. 一部把握できている 3. 正しく把握できていない 4. 課題・問題点はない			
7	他の事業との統合及び事業廃止等の必要性について (既存の事業枠を超えた、他の事業との統合、事業廃止、事業の分割の必要性を評価する)	1	1	1
	1. 現状の事業枠が適正である 2. 他の事業との統合が必要である 3. 事業の分割が必要である(新規事業として切り離す分野がある)			
8	市民等への周知・情報公開について (市民等への周知を意識し、透明度の高い事業であるか評価する)	2	2	2
	1. 十分に周知されている 2. 一部周知されていない 3. 周知する必要があるが周知されていない 4. 周知する必要はない			

【事業評価2】 同一施策内の他の事業と比較し、当該事業を相対的に評価する

No.	評価項目・評価基準	担当	内部	外部
9	市民ニーズ・社会需要について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、市民ニーズ・社会需要等が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 必要性が高い 2. 必要性が低い 3. どちらとも言えない			
10	施策内での優先度について (施策を構成する他の事業と相対的に比較し、他の事業に先行して実施する必要性が高いのか評価する)	1	1	1
	1. 優先的に実施すべきである 2. 優先的に実施することが望ましい 3. 優先的に実施する必要性は低い			

※各評価項目・評価基準内の選択肢は必ずしも評価の高いものから順に列挙されていない点にご留意ください。



平成30年度

海老名市行政評価結果報告書

海老名市財務部企画財政課